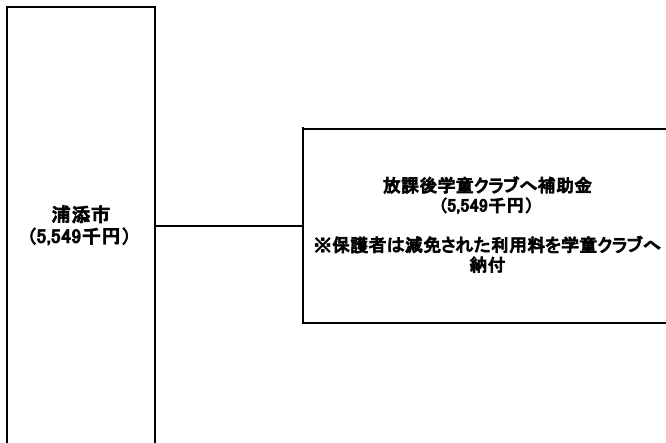


市町村名	浦添市							
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>								
事業番号・事業名	1-①	ひとり親家庭等放課後児童クラブ利用支援事業	新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-2-(1)-(イ)				
担当部署名	こども未来部  こども政策課	事業実施 (予定)年度	令和4年度～令和13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	貧困状態にある子供への支援  Ⅲ-4-(1)			
事業内容	放課後児童クラブがひとり親家庭の利用者に対し保育料を減免した場合に補助を行う。低所得の児童扶養手当受給対象者とする。利用料からおやつ代等の実費負担分を引いた金額(保育料)月上限5,000円とする。							
効果発現年度	■当年度      □後年度(      年度)							
実施方法	□直接実施      □委託      ■補助      □負担      □その他(      )							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	23,640					
		(b) 予算現額	23,640					
		(c) 増減額(b-a)	0					
		(d) 繰越額	0					
		A. 計(b+d)	23,640					
	B. 執行済額		5,549					
	うち交付金充当額		4,439					
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		23.5%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		令和4年度からの母子父子世帯に加えて非課税世帯及び生活保護受給世帯が対象となり、事業計画通りに執行した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
	沖縄県の利用料減免事業の市負担分(1/4)を市の一括交付金事業にて賄う。		目標	( 80% )	(            )	(            )	(            )	
			実績	100%				
			目標	(            )	(            )	(            )	(            )	
実績								
達成状況説明	利用を希望し申請したすべての保護者への補助はできた							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)	
	ひとり親家庭等への学童クラブ費の減免についてアンケートを取り負担軽減や就労支援につながっているか確認する。		目標	(            )	( 80% )	(            )	(            )	(            )
			実績		93.40%			
			目標	(            )	(            )	(            )	(            )	(            )
			実績					
進捗状況説明	事業利用者へアンケート調査をおこなったところ、回答者の93.4%の方が負担軽減につながっていると回答。今後も続けてほしいとの意見も得られた。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	概ね成果目標を達成することができたが、すべての対象者への周知がいきわたっているのかということや、申請するために書類をそろえたり、役所へ来庁する必要があることに対して保護者の負担がある。	対象者が拡充したこと及び申請方法が変わったことへの案内について、学童クラブを通じた案内及びHPでより広く案内をかける。
今後の取り組み方針		
HPでの情報発信に加え、学童クラブへも積極的に声掛けしてもらい、場合によっては学童を経由した申請方法等を検討する。また、今後も事業継続して負担軽減を図る。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
22,196	5,549	4,439	1,110	16,647



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・申請のあった保護者の所属する学童クラブに対して、適切に補助を実施した。保護者からも負担軽減につながったという回答を得られた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		浦添市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	てだこ市民によるウラオソイ風景づくり推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(5)-イ 沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり	
担当部署	都市建設部 美らまち推進課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	III-3-(3)		
事業内容	観光地としての魅力向上や地域住民等が地元の歴史や文化に対する興味を深めるため、「沖縄らしい美しいまちなみ景観」の創出・保全・再生を図る事業。						
効果発現年度	■当年度                      ■後年度(令和5年度)						
実施方法	□直接実施    ■委託    ■補助    □負担    □その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	20,300	14,000	13,000	11,000	7,234
		(b)予算現額	20,300	14,868	20,566	7,690	7,211
		(c)増減額(b-a)	0	868	7,566	-3,310	-23
		(d)繰越額					
	A.計(b+d)	20,300	14,868	20,566	7,690	7,211	
	B.執行済額	11823	14,859	19,979	7,688	7,211	
	うち交付金充当額	9459	11,887	15,983	6,150	5,768	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	58.2%	99.9%	97.1%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	まちなみ景観を修景するための支援として、5,000(千円)を予算計上していたが、沖縄都市モルールの開通に伴い、令和2年度から対象地区での建物着工件数が増えたが、令和4年度は落ち着き始めたことで、両地区で助成交付対象行為5件1,976(千円)の実績額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	①風景づくり推進調査業務の完了 景観地区等の計画策定業務(浦添前田駅周辺土地区画整理事業地区)	目標	( 2地区 )	( 2地区 )	( 2地区 )	( 2地区 )	
		実績	2地区	2地区	2地区	2地区	
	②補助(工事)完了 まちなみ景観を修景するための支援	目標	( 2地区 )	( 2地区 )	( 2地区 )	( 2地区 )	
実績		2地区	2地区	2地区	2地区		
③地域景観資源を保全、活用、創造する自主的なまちづくり活動団体等への支援	目標	( 3団体 )	( 3団体 )	( 3団体 )	( 3団体 )		
	実績	3団体	2団体	2団体	2団体		
達成状況説明	①風景づくり推進調査業務の完了 景観地区等の指定に向けた素案の検討及び作成、都市計画決定図書(案)の作成。 ②まちなみ景観を修景するための支援:目標値のとおり2地区の支援を実施。 ③地域景観資源を保全、活用、創造する自主的なまちづくり団体等への支援を実施しているが、目標を達成できなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	①風景づくり推進調査業務の完了 景観地区等の計画策定業務(浦添前田駅周辺土地区画整理事業地区)	目標	( )	( 実施 )	( 実施 )	( 実施 )	( )
		実績		完了	完了	完了	
	②補助対象工事7件 内訳 赤瓦葺き工事3件 石積み、石張り等の工事2件 生垣等の工事2件	目標	( )	( 33件 )	( 6件 )	( 7件 )	( )
実績			27件	12件	5件		

成果目標 (指標) 及び進捗状況	進捗状況説明	③地域の歴史や文化に対する興味がわいたか(80%以上)を含め、参加者に対するアンケートにより本事業のあり方を検証する。 歴史ガイド参加者(300人/年)	目標	( )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( )
		実績		100%	70%	90%		

①風景づくり推進調査業務については、目標値どおり景観地区等の指定に向けた素案の検討及び作成、都市計画決定図書(案)の作成を実施した。  
②まちなみ景観を修景するための支援については、2地区において赤瓦葺き工事が3件、生垣等の工事が1件、石積み・石張り等の工事が1件で合計5件、1,976千円の実績となっており、目標を達成できなかった。  
③地域景観資源を保全、活用、創造する自主的なまちづくり団体等への支援については、新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、開催された活動の参加者からは目標を超える満足度を示すアンケート結果が得られた。  
歴史ガイド参加者(639人/令和4年度)

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンボルロード地区・都市モノ沿線地区は、世界遺産追加登録を目指す浦添グスクの麓に位置している。今後、浦添グスクの麓に相応しい、かつ沖縄らしい美しいまちなみ景観形成を推進するためには、更なる景観施策の検討を行う必要がある。そのため浦添市前田駅周辺地区の地権者へ合意形成を図るためには丁寧な説明、意見交換が必要である。</li> <li>まちなみ修景支援については、沖縄都市モノレール延長区間の開通に伴い建築物の新築工事の建て替えが見られることから、今後も当該地区における建築計画等への対応が行えるよう、適切な予算措置が必要である。</li> <li>まちづくり活動支援については、自主的活動を行う団体を対象に継続的な支援を行う。コロナ過等で活動休止した団体には、再開して取組みが出来るよう、引き続き働きかけが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンボルロード地区、沖縄都市モノ沿線地区については、景観形成の規制・誘導を目的とする景観まちづくり計画の改定及び、本市の屋外広告物条例を制定・運用を行ったことで、沖縄らしい美しいまちなみ景観形成の推進が図られる。引き続き、地域の地権者等には誠意をもってに対応が必要。</li> <li>まちなみ景観支援については、建築計画を事前協議で確認し、景観形成基準に適合した建物のなるよう誘導を行うことや予算措置の必要性を把握することで、本市における良好なまちなみ景観の形成が図られる。</li> <li>まちづくり活動団体の自主的な活動を支援することで、地域住民及び来訪者等が地元の歴史並びに文化に対する関心が高まると考えられる。活動休止団体については新規参加者の募集を行うなど再開に向けて取り組む必要がある。</li> </ul>

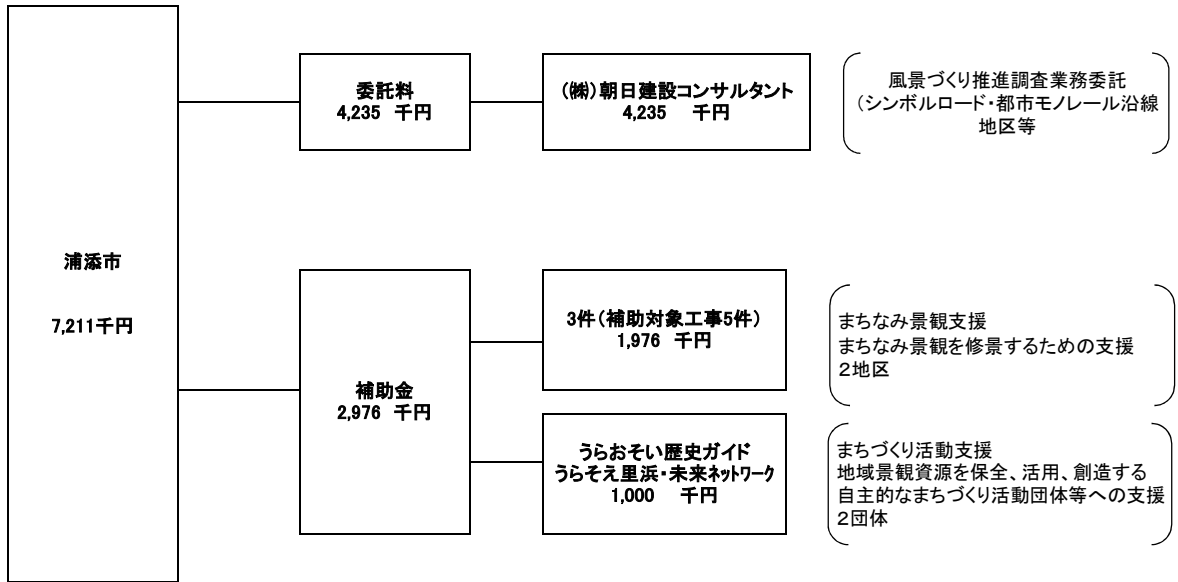
今後の取り組み方針

・景観計画委託業務(シンボルロード地区・都市モノ沿線地区等)については、今年度検討した内容を取り纏め、浦添前田駅周辺区画整理地内の景観地区等指定に向けて景観施策を行う。  
・まちなみ景観を修景するための支援を継続的に行うことで、沖縄らしい美しいまちなみ景観形成に務める。また、上記の景観地区等指定した際には、該当地区も含めて地域一体的な景観修景を進める。  
・まちづくり活動団体等の支援を継続的に行うことで、地域における歴史・文化への興味及び認識度の充実に努めるとともに、満足度の検証を行う。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,211	7,211	5,768	1,443	0

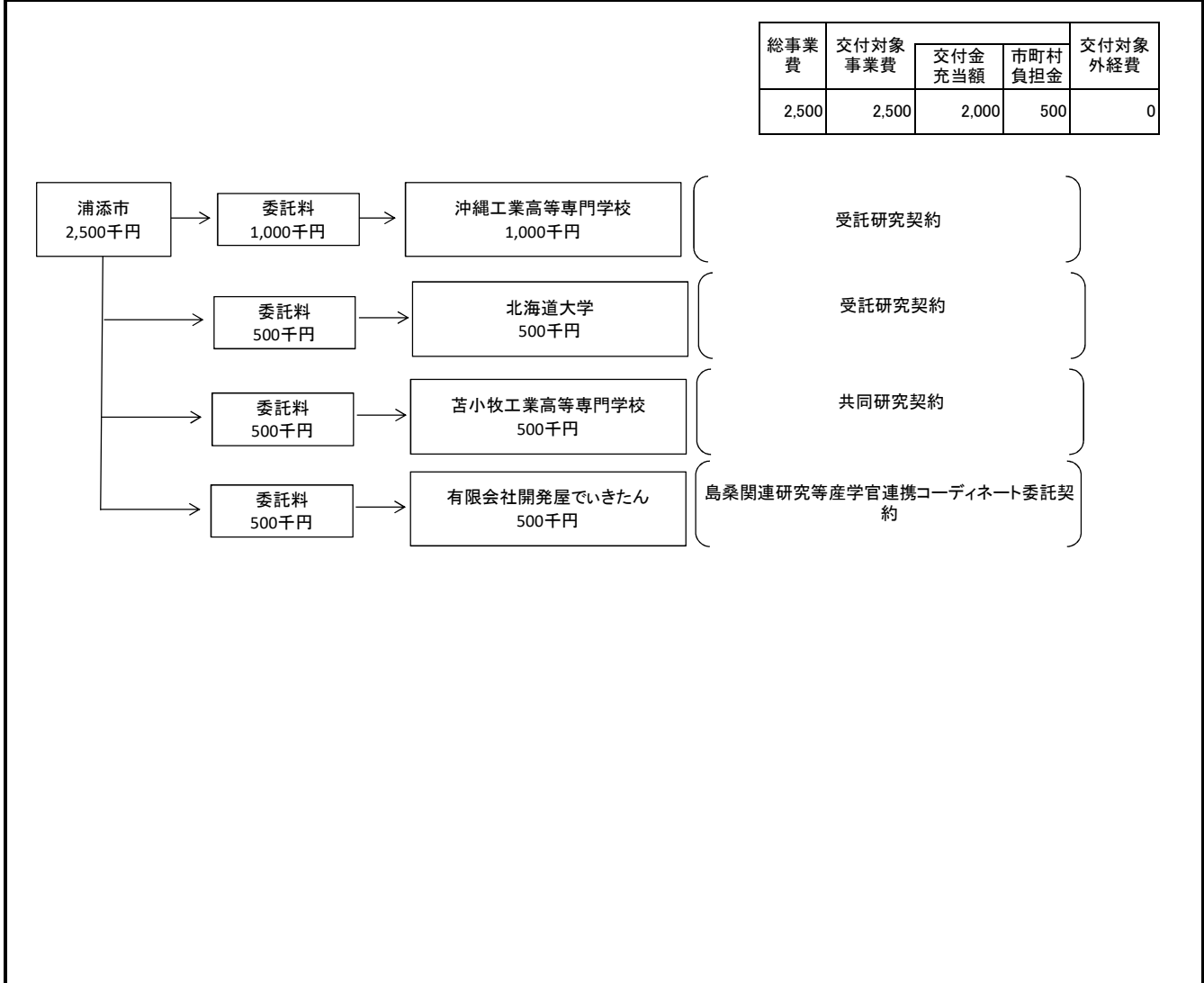


資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託については、浦添市契約規則を基に、指名競争入札参加者資格や指名を行い適切であると考え。 ○事業内容に見合った業務規模を履行しており適正であったと考える。 ○受益者は住民や活動団体等であり、市負担として妥当である。 ○費用・使途について、事業目的に必要なものに限定されており適正であると考え。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	浦添市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	3	島桑産業拡大支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(1)-ア	
担当部署名	市民部 経済文化局 産業振興課	事業実施(予定)年度	令和4～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	全産業における労働生産性の向上 Ⅲ-1-(4)	
事業内容	沖縄県の在来品種であるシマグワが持つ機能性等を研究機関と共同研究することで、科学的エビデンスを構築し、地域産業の付加価値を向上させる。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )					
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	<b>予算の状況</b> (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
		2,500				
		2,500				
		0	0	0	0	0
		0				0
	B. 執行済額	2,500				
	うち交付金充当額	2,000				
	次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	予算の状況の説明	当初予算から、予算の増減、未執行額はなし。当初予定していた内容はすべて履行しており適正である。				
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)	達成状況				
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	研究機関との共同研究	目標	( 実施 )	(    )	(    )	(    )
		実績	実施			
	目標	(    )	(    )	(    )	(    )	
実績						
達成状況説明	シマグワの機能性について、次のことについての研究を行った。 ・シルク中セリシンの化粧品への活用に関する研究 ・シマグワ実製品中のイミノ糖の定量・αグルコシダーゼ阻害活性調査 ・果実搾汁効率を上げるための酵素の選定および搾汁方法の確立 ・シマグワの葉等に含まれるDNJのマウスの腸内細菌叢やメタボライトへの影響に関する研究					
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
		目標	(    ) ( 4件 )	(    )	(    )	(    )
	実績	4件				
	目標	(    ) (    )	(    )	(    )	(    )	
	実績					
進捗状況説明	「研究成果及び学会発表等4課題」については、研究報告会の実施や4課題の研究を行ったため、目標を達成することができた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究委託先である研究機関が3件あり、うち県外が2件あることから、研究課題の進捗状況についてwebや実地での研究報告会を行い、研究内容の把握に努め、研究結果について、産業利用を図るために事業者とのマッチングを行ったことにより目標を達成することができた。</li> <li>研究によって構築されたシマグワが持つ科学的エビデンスについて、これまで学会発表やシンポジウム等を行い周知に努めてきたが、市内及び県内外の事業者に対し、十分に浸透していない状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度に行った研究結果や、これまで行ってきたシマグワに係る研究結果について、より簡単に情報を得られる環境を整えるため、浦添市のホームページ等で周知を行う。</li> </ul>
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、シマグワが持つ機能性等を研究機関と共同研究することで、地域産業の付加価値を向上させる。</li> <li>研究結果について、引き続き産業利用を図るため、事業者とのマッチングを行う。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

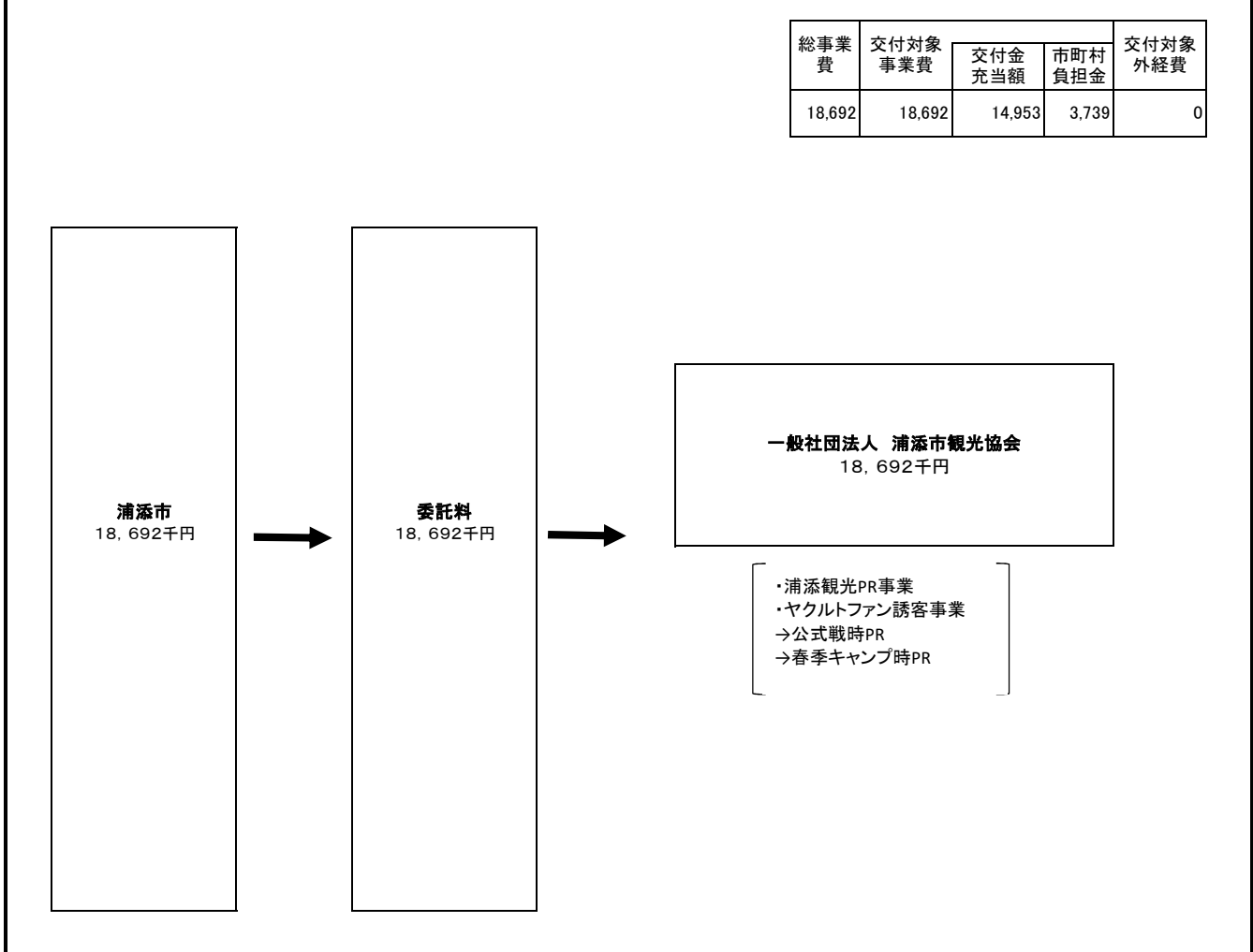


資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の契約方法は地方自治法施行令及び浦添市契約規則の規定に基づいたものとなっている。また、随意契約理由として、当該委託研究内容は過年度から各研究機関が行ってきた経緯があり、この研究を行えるのが各委託研究機関のみとなっていることから、適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、予算執行に係る精査を踏まえた執行であると認め、執行率上も適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者は、当該研究で得られたエビデンスを基に商品開発等を行う事業者となるが、商品開発等は事業者負担で行うため、適切である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○目的に準じた経費支出であると認めており、適正である。

市町村名		浦添市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4 浦添観光振興事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章-3-(2)-ウ		
	担当部署名 市民部 経済文化局 観光振興課		事業実施(予定)年度	平成29年度～令和7年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進	
III-1-(1)							
事業内容	本市へ観光客を誘客するため、観光ポータルサイト「うらそえナビ」を活用した継続した本市PR及び効率的な情報発信を行う。また、既存観光コンテンツを活用した観光誘客を図る。さらに、東京ヤクルトスワローズのキャンプ地であることを活用したファン誘客事業、市内周遊促進事業を実施し、観光による市内経済活性化を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a)当初予算額	30,000	23,750	23,400	21,500	18,866
	(b)予算現額	30,000	23,750	23,400	21,500	18,866	
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d)繰越額						
	A.計(b+d)	30,000	23,750	23,400	21,500	18,866	
	B.執行済額	29,872	23,669	22,129	21,335	18,692	
	うち交付金充当額	23,897	18,935	17,703	17,068	14,953	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	99.6%	99.7%	94.6%	99.2%	99.1%	
予算の状況の説明	執行率は、99.1%であり仕様書の内容を全て完了することが出来た。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	浦添PR(Web)120件	目標	( 120 )	( 120 )	( 120 )	( 120 )	
		実績	135	123	145	141	
	プロ野球キャンプファン誘客イベント2回	目標	( 2回 )	( 2回 )	( 2回 )	( 2回 )	
		実績	2回	2回	2回	2回	
達成状況説明	【浦添PR(Web)】 ・観光ポータルサイト「うらそえナビ」で市内の各種イベント情報や観光情報を発信し、目標値を上回る141件を達成できた。 【プロ野球キャンプファン誘客イベント】 ・プロ野球公式戦やファン感謝デー2022でのPRを行い、春季キャンプ期間中に浦添市に足を運んでもらえるような企画や市の魅力の情報発信を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	ポータルサイト訪問者数700,000人以上	目標	( )	( 683,000人 )	( 450,000人 )	( 700,000人 )	( )
		実績			580,729人	382,783人	402,170人
	プロ野球春季キャンプファン誘客37,000人以上	目標	( )	( 34,000人 )	( 30,000人 )	( 37,000人 )	( )
		実績			無観客	21,832人	35,697人
	進捗状況説明	【ポータルサイト訪問者数】 ・観光ポータルサイト「うらそえナビ」への訪問者数の集計を行った。 上半期の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、旅行需要の低下や市内イベントの中止等から、目標値に届かなかった。 【プロ野球春季キャンプファン誘客】 ・春季キャンプ約1か月間の来場者数の計測を行った。3年ぶりに制限のない春季キャンプを実施することができたことや、東京ヤクルトスワローズがリーグ2連覇を果たしたこともあり、目標値を達成することは出来なかったが目標の約96%の人数を誘客でき昨年度よりも多くのプロ野球ファンが訪れた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<b>【ポータルサイト訪問者数】</b> ・目標に届かなかった原因として、上半期の新型コロナウイルス感染症の影響により外出自粛やイベントの中止・延期があり、イベント情報などが少ないこともあったことから目標値を達成することが出来なかった。	<b>【ポータルサイト訪問者数】</b> ・コロナ禍前の旅行需要が戻りつつある中、浦添市を旅先の候補としてあげられるような、ユーザーニーズを満たしたコンテンツの発掘、当該ポータルサイトでしか得られないような差別化された内容を持つ記事を増やしていく必要がある。
	<b>【プロ野球春季キャンプファン誘客】</b> ・プロ野球春季キャンプファン誘客については、3年ぶりに制限のない春季キャンプを開催できたことで、コロナ禍前の来場者数とほぼ同数の来場者数を計測できたが、目標値にはあと少し届かなかった。継続したPR、浦添市に足を運んでもらえるような企画の実施が必要と考えられる。	<b>【プロ野球春季キャンプファン誘客】</b> ・旅行需要が戻ってくる今後の春季キャンプに向け、ファンに興味を持ってもらえるような企画、イベントを検討し公式戦やファン感謝デーなどでヤクルトファンへ継続的な情報発信をしていく必要がある。
<b>今後の取り組み方針</b>		
<b>【ポータルサイト訪問者数】</b> ・withコロナ、afterコロナを見据えながらユーザーニーズを満たしたコンテンツの提供、多数の人の目に留まるようなオリジナリティのあるページをSNSと連携しながら更新していく必要がある。		
<b>【プロ野球春季キャンプファン誘客】</b> ・プロ野球春季キャンプファン誘客については、今後も誘客に繋げられるような企画やイベントを検討し、継続的な情報発信を行う。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



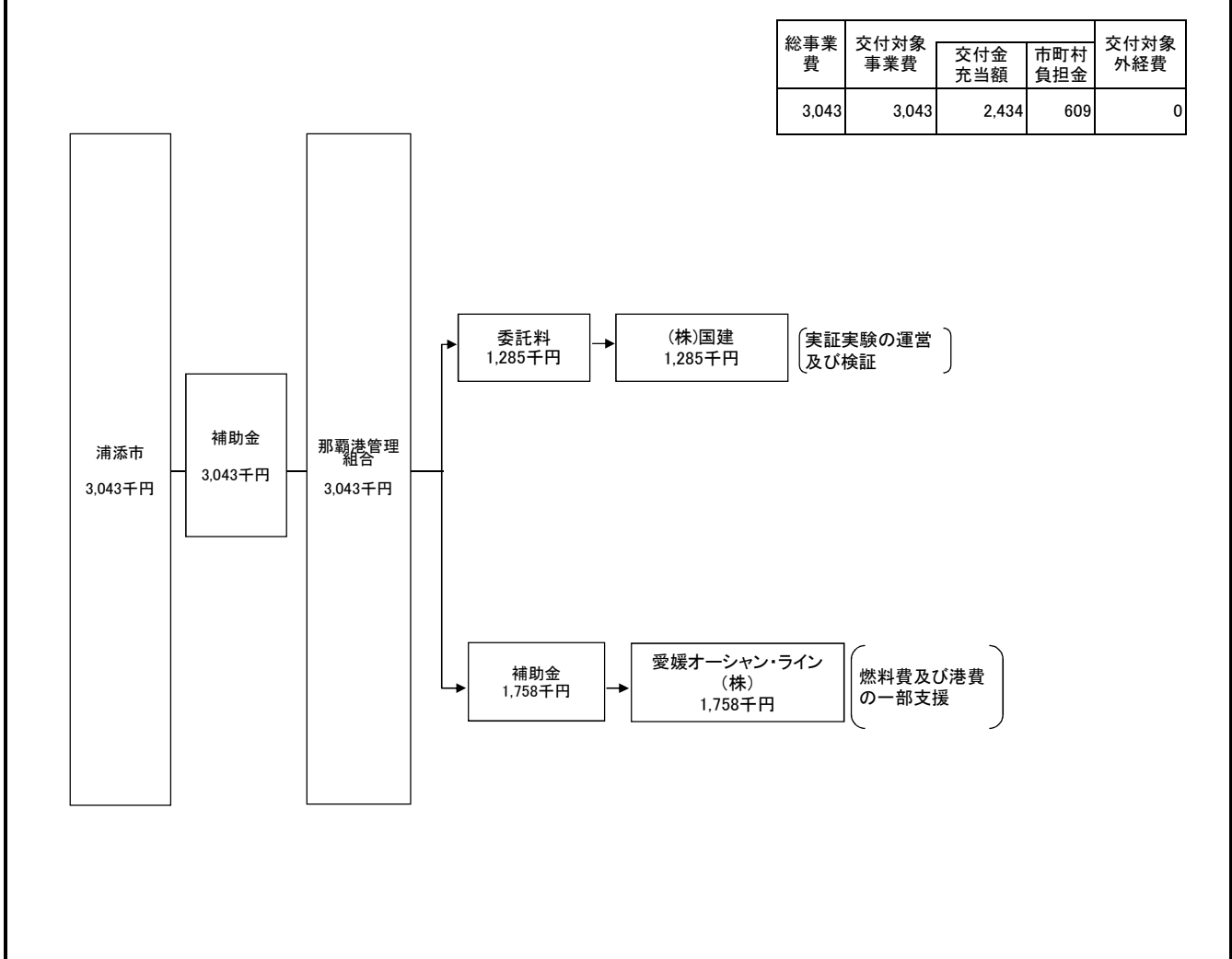
資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○契約は地方自治法施行令第167条の2第1項第6号を根拠とした随意契約で行っており、当該事業者は市内事業者との連携体制を有しているとともに、ヤクルト球団との連携体制ももつ事業者で本業務を委託するにあたって妥当である。  ○事業執行率は99.1%であり適正な規模であった。  ○費用・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか、額の確定時にいずれも書類の確認を行い、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名		浦添市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5 国際海上物流ネットワーク形成促進支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章-3-(4)-ア		
	担当部署名	企画部 西部開発局 西海岸開発課		事業実施(予定)年度	平成24年度～令和13年度	国際航路拡充及び物流対策の強化	
		沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-(3)			
事業内容	沖縄県は地理的要因などから輸送コストが割高となっているため、その解消策として、那覇港に寄港する船社を対象とした実証実験を実施し、取扱貨物量の増加及び航路の拡充を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		(a)当初予算額			4,000	2,190	3,290
	(b)予算現額			2,854	2,190	3,290	
	(c)増減額(b-a)	0	0	▲1,146	0	0	
	(d)繰越額						
	A.計(b+d)	0	0	2,854	2,190	3,290	
	B.執行済額			2410	1,981	3,043	
	うち交付金充当額			1928	1,585	2,434	
	次年度繰越額				0	0	
	執行率(%) (B/A)	0.0%	0.0%	84.4%	90.5%	92.5%	
予算の状況の説明	・不用額については、委託業務の入札残や補助金の精算減によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	船社を対象とした実証実験及び検討業務委託の実施。	目標	( - )	( 船社を対象とした実証実験及び検討業務委託の実施 )	( 船社を対象とした実証実験及び検討業務委託の実施 )	( 補助金支援及びモニタリング調査等(継続1船社) )	
		実績	-	船社を対象とした実証実験及び検討業務委託の実施	船社を対象とした実証実験及び検討業務委託の実施	補助金支援及びモニタリング調査等(継続1船社)	
		目標	( )	( )	( )	( )	
	実績						
達成状況説明	・船社を対象とした実証実験及び検討業務委託を実施し、新規航路開設に向けた検討を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	1-1. 那覇港に寄港する外航航路の拡充(2航路増R4)	目標	( )	( 新規1航路 )	( 継続1航路 新規1航路 )	( 継続1航路 新規1航路 )	( )
		実績		新規1航路	継続1航路	継続1航路	
	1-2. 実証実験における取扱貨物量の増加(R3最大156TEU/寄港→R4計画355TEU/寄港)	目標	( )	( )	( )	( 貨物量の増加:計画355TEU/寄港 )	( )
		実績				貨物量の増加:実績197TEU/寄港	
進捗状況説明	・令和2年度に新規開設した航路は令和3年度も継続して実証実験に参加し、運航を継続した。 ・令和3年度に引き続き、令和4年度もコンテナ不足や輸送スケジュールの混乱に伴う運賃高騰等の影響が大きく、備船料の高騰も重なり、現航路の維持に尽力している状況であったため、新規航路の開設は達成出来ない状況であった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる国際航路拡充を図るため、国際コンテナターミナルの改善・高度化や船社ニーズに対応したインセンティブの検討が求められている。</li> <li>・社会情勢の変化等の影響で、世界的なコンテナ不足や輸送スケジュールの乱れ、また海上輸送の需給逼迫及び燃料費高騰に伴う海上運賃・備船料等の高騰が生じており、取扱貨物量がやや減少傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・那覇港管理組合、那覇国際コンテナターミナル株式会社及び関係機関間で国際航路拡充に対する新たな問題点や課題を共有し、国際コンテナターミナルの改善・高度化や船社ニーズに対応した効果的なインセンティブを検討・実施することで、外部環境の変化の中においても、取扱貨物の維持・増加に努める。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>・那覇港管理組合、那覇国際コンテナターミナル(株)及び那覇港総合物流センター運営企業間での連絡会議の実施体制強化に加え、沖縄総合事務局や沖縄県の関係部署等との連携を図り、国際コンテナターミナルの改善・高度化に向けた検討や、世界的な海上輸送混乱等の影響下における取扱貨物の維持・増加に向けた取組を検討する。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



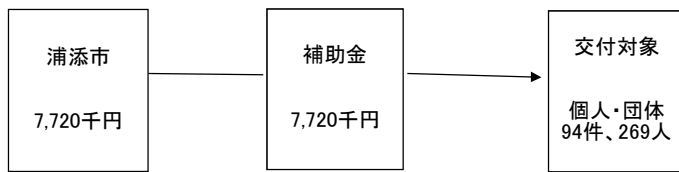
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託については、随意契約ガイドラインを基に地方自治法施行令第167条第1項第2号の企画競争型随意契約(プロポーザル)に該当するため随意契約としており、支出先及び額は適正である。また、補助金についても、補助金交付要綱に則り、適切に交付を行っている。</p> <p>○委託については、契約額の範囲内で事業目的、仕様に合致した成果物が完成しており、適切に実施されている。また、補助金については、交付要綱に基づく決定内容・これに附した条件に適合しており、適切に執行された。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○			

市町村名		令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	6	未来へ翔たく太陽っ子育て事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ		
担当部署名	指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	令和4年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進		
事業内容	市内在住又は市内小中学校在籍の児童生徒がスポーツ・文化活動の全国大会において、県外生徒との競争や交流機会を増やすことにより、児童生徒に幅広い視野を持たせ、人材育成を図る目的と保護者の負担軽減を図るため、全国大会等に参加する児童生徒を対象として、大会開催地までの渡航に必要な費用の一部を支援する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		10,000	10,000	10,742	14,844	8,594	
			10,000	10,000	5,553	8,594	8,594	
			0	0	▲ 5,189	▲ 6,250	0	
			10,000	10,000	5,553	8,594	8,594	
	B. 執行済額 うち交付金充当額		9995	8588	704	4,598	7,720	
			7996	6870	563	3,677	6,176	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%	85.9%	12.7%	53.5%	89.8%	
	予算の状況の説明	令和2年度、令和3年度については、新型コロナウイルスの影響により大会が中止となることが多く、執行率が低い状況にあったが、令和4年度からは開催される大会も増えたため、執行率が前年度に比べ上昇している。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	県外大会派遣支援の実施	目標	( 派遣支援の実施 )	( 派遣支援の実施 )	( 派遣支援の実施 )	( 派遣支援の実施 )		
		実績	派遣支援の実施	派遣支援の実施	派遣支援の実施	派遣支援の実施		
			目標	(                    )	(                    )	(                    )	(                    )	
		実績						
達成状況説明	スポーツ・文化活動において、九州大会へ出場するために要する費用のうち、航空運賃の半額を上限として、令和4年4月から令和5年3月までに延べ269人へ補助金の交付を行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	県外の人との競争や交流を通じて児童生徒の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケートにより、本事業の効果を検証する。	目標	(                    )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	(                    )	
		実績		99%	98%	99%		
			目標	(                    )	(                    )	(                    )	(                    )	
			実績					
進捗状況説明	申請した補助対象児童生徒(延べ269人)の保護者へ5項目からなるアンケートを実施し、194名から回答があった。集計したところ、目標とする「県外の人との競争や交流を通じて『児童生徒の視野が広がった』とする保護者の割合80%以上」の目標値を19%上回る99%の結果となった。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>児童生徒の健全育成の推進を検証するにあたり、昨年度のアンケート項目を1つ変更したうえで、保護者アンケートを実施。目標の80%を超える結果が得られた。保護者の負担軽減を図り且つ児童生徒へ県外での活動機会の支援を推進できたことが、目標値を上回った要因と分析する。</p>	<p>アンケート結果より、県外派遣を通して児童生徒の意識向上が見て取れることから、本事業の必要性は高いと考えられるため、より多くの児童生徒が活用できるための検討が必要。</p>
今後の取り組み方針		
<p>対象者の保護者アンケートについて、検証の精度を高めるため、アンケート内容等を吟味しながら引き続き実施していく。 昨今では、児童生徒が携わる競技・活動種目の多様化が見受けられるため、現行の補助交付規定では補助対象外となるケースが出てくることが予想される。関係機関等からの情報収集を行い、交付規定の見直しを行っていく。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
10,294	7,720	6,176	1,544	2,574



児童生徒の県外派遣における航空賃の半額補助

**【補助内容】**  
水泳・レスリング・サッカー・ボクシング・囲碁・ハンドボール・相撲・陸上・吹奏楽・空手道・剣道・合唱・柔道・体操等

**【交付対象外経費】**  
2,574千円(市負担分)  
航空賃1/2・宿泊費・楽器輸送費・会場費

資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○当該事業補助金交付規程に基づき、交付決定しているため妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○派遣対象人数の見込を事前に把握するのは困難であるが、今年度の予算規模については概ね適正な規模と考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担において、市で定めている規程に基づき補助額を決定しているため、妥当と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については額の確定時において、実績報告書及び領収証で精査しており、適正である。

市町村名		浦添市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	7 自然体験学習事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章-5-(2)-ウ			
	担当部署名	指導部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成24年度～令和13年度	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進		
		沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-3-(1)				
事業内容	協働的な学びを通じて、よりよい人間関係を築く力を育むため、自然豊かな環境で、市内全小学校5年生(1314名)を対象に、集団宿泊活動を実施する(集団での宿泊や沖縄独自の自然の中で行う様々な体験活動(登山・野外炊飯・キャンプファイヤー等)を実施する)。							
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他( )							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
		(a)当初予算額	25,813	25,967	26,448	12,638	4,838	
	(b)予算現額	25,813	25,967	0	12,638	4,838		
	(c)増減額(b-a)	0	0	▲26,448	0	0		
	(d)繰越額	0	0	0	0	0		
	A.計(b+d)	25,813	25,967	0	12,638	4,838		
	B.執行済額	25,767	25,944	0	12,336	4,604		
	うち交付金充当額	20,613	20,754	0	9,868	3,683		
	次年度繰越額	0	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	99.8%	99.9%	#DIV/0!	97.6%	95.2%		
予算の状況の説明		新型コロナウイルス、台風の影響により事業内容を一部変更した学校が3校あったが、不用率は5%以下であり、適正であった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	沖縄独自の自然の中での集団宿泊や登山・野外炊飯・キャンプファイヤー等の体験活動		目標	(11校11回実施)	(11校11回実施)	(11校11回実施)	(11校11回実施)	
	市内全11小学校の5年生(令和1年から令和3年度までは農漁村部での日帰り体験活動を実施した)		実績	11校11回実施	事業中止	11校11回実施	11校11回実施(3校は日帰りで実施)	
		目標	( )	( )	( )	( )		
		実績						
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内全小学校5年生全員を対象に登山や野外炊飯等の体験活動を行ったことで、沖縄特有の自然や生き物と触れ合い、郷土の自然を大切にしようとする意識が芽生えた。また、仲間と信頼しあい、協力することの大切さや責任をもって自分の役割を果たすこと等キャリア発達を促す気づきがあった。</li> <li>全11校(11回)で実施した。</li> <li>1252名の児童が参加した。(新型コロナウイルス感染の不安などによる欠席のため予定より減少した。)</li> </ul>							
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	(R4)自然体験教室を通して、児童のよりよい人間関係を築く力(協調性・協働的な態度)が向上したと評価する学校の割合 90%以上		目標	( )	( 80% )	( 80% )	( 90% )	( )
	(～R3)事業のねらいに沿った5つの質問項目(児童対象)における事業実施後(事業実施後1ヶ月以内)調査において、肯定的な回答児童(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方を検証する。		実績		中止	85.50%	93%	
	【参考指標】(～R3)自然体験活動を通して、児童の社会性(協力的な姿勢)が向上したか(80%以上)を含め、保護者アンケートにより本事業のあり方を検証する。		目標	( )	( 80% )	( 80% )	( )	( )
		実績		中止	67.10%			
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業後に各小学校に実施した意識調査で、児童のよりよい人間関係を築く力(協調性・共同的な態度)に関する質問項目については11校すべてにおいて「決まった友達だけでなく多くの仲間と関わりながら協力して活動することができた」「自然体験学習をとおして、学級・学年における児童の人間関係が良くなった」と肯定的な回答をしている。また、「主体的に考え自力解決する力」や「物事を最後までやり遂げる力」等、他のキャリア発達に関する質問についても、90%以上の肯定的な回答が示された。</li> <li>令和4年度より、エコアイランドに向けた人材育成及びキャリア教育事業から自然体験学習に事業が移行し、担任教師が成果目標の達成状況を評価できると判断したため、保護者アンケートは実施していない。</li> </ul>							

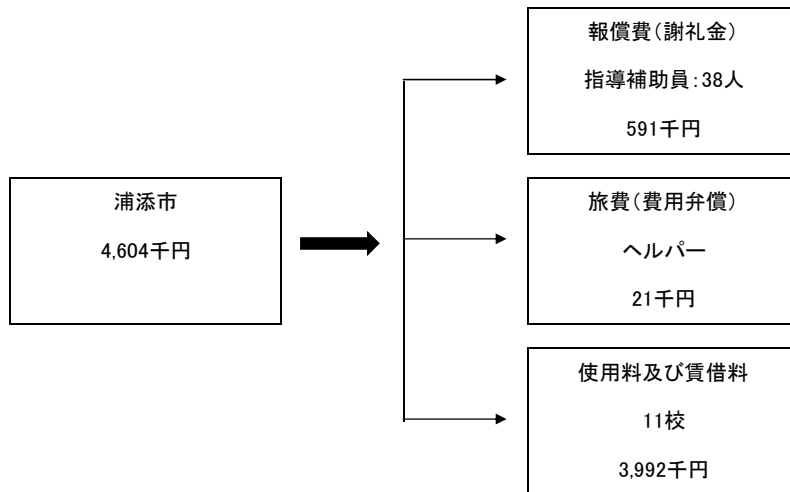
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童対象の意識調査(事前・事後)のほか、児童の変容の度合いについて、より客観的な視点からの指標を捉えるため、教員対象の調査を行っている。</li> <li>・屋外での体験活動が多いため、雨天時のプログラム内容に課題がある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の5類移行後もコロナ不安等の要因で自然体験活動への参加を見合わせる家庭があることが予想される。参加できない児童へのケアを考える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級づくりを充分に行ったうえで2学期に体験を実施したいが希望どおりの日程で実施できなかったとの反省があった。開催時期について検討を行う必要がある。</li> <li>・雨天時に活動できないプログラムの代替案について、より効果的な内容を検討する必要がある。</li> <li>・「エコアイランドに向けた人材育成及びキャリア教育事業」の良さを継承しつつ「自然体験学習事業」として外部環境の変化にも柔軟に対応できるように利用施設の選定も含め、プログラムの検討を行う必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・本事業(集団宿泊的行事)は、小学校学習指導要領に実施が位置づけられており継続して実施する。  
 ・各学校からの自然体験事業に関する事後アンケートから事業の効果性を見取ることができるため、引き続き自然豊かな環境の中でよりよい人間関係を形成しようとする態度(社会性)を身につけるとともに、自分の考えを深めたり、広げたりする協働的な学びができる児童の育成を目指す。  
 ・体験プログラムや実施時期について学校の実態に即した活動が行えるようにするために、利用施設と連携し、複数箇所から体験活動の場所を選択できるように推進する。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
4,604	4,604	3,683	921	0

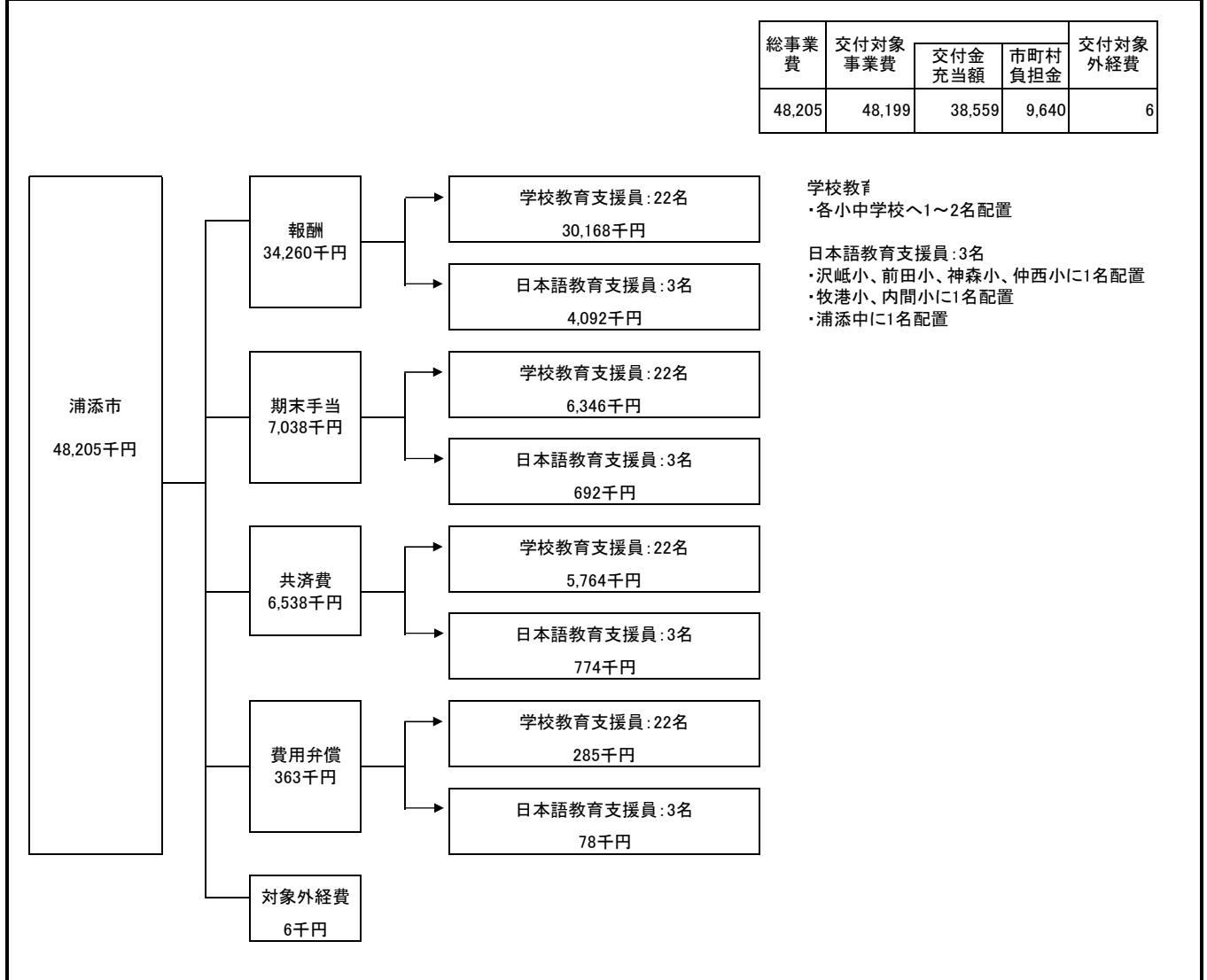


資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	教育課程に位置付けのある宿泊学習となっている。宿泊先のシーツ料金、食費については受益者負担としており適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		浦添市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8	学力底上げ推進支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(1)-ア	
	担当部署名	指導部 学校教育課	事業実施 (予定)年度	平成24年～令和5年	沖縄振興基本方針 該当箇所	地域を知り、学びを深める環境 づくり Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童生徒の学力に応じた個々の学習指導による学力の底上げを図るため、各小中学校へ学校教育支援員を21名、日本語教育支援員を2名配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	67,059	62,872	57,810	51,096	54,696
		(b) 予算現額	67,059	62,872	57,810	51,096	54,696
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		67,059	62,872	57,810	51,096	54,696
	B. 執行済額		64,568	50,994	60,457	49,310	48,199
	うち交付金充当額		51,654	40,795	48,365	39,447	38,559
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.3%	81.1%	104.6%	96.5%	88.1%
予算の状況の説明		当初の計画どおり学校教育支援員を配置できない期間があった。(学校教育支援員が途中退職により、新たに採用するまで欠員となっていた。)					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	学校教育支援員 ・小学校14名(各校1名～2名) ・中学校8名(各校1名～2名)		目標 ( 32名 )	( 28名 )	( 21名 )	( 22名 )	
			実績	29名	28名	21名	22名
日本語教育支援員 ・3名		目標 ( 4名 )	( 4名 )	( 3名 )	( 3名 )		
		実績	4名	4名	3名	3名	
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>①各種学力調査等の正答率30%未満の児童生徒を把握し、学級・教科担任とチーム・ティーチングによるきめ細やかな学習支援や学び直しのため、22名の学校教育支援員を配置し効果的な活用に努めた。②学習の理解度や定着度を高めるため、放課後等の個別指導・学習支援を行った。</li> <li>・日本語力が十分でない児童生徒を対象に、学校生活に馴染み、各教科等や教育活動に日本語で十分参加できるよう支援を行うため、日本語教育支援員3名を配置し、5校(小学校4校、中学校1校)13名の児童・生徒の支援を行った。</li> </ul>					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)
	沖縄県学力到達度調査において、県と本市との平均正答率の差を以下のとおりとする。 【参考指標】 ・小学校:算数 +0.2ポイント以上		目標 ( )	( +0.2P )	( +0.2P )	( +0.2P )	( +0.2P )
			実績	±0P	+0.1P	-0.2P	
	沖縄県学力到達度調査において、県と本市との平均正答率の差を以下のとおりとする。 【参考指標】 ・中学校:数学 +0.2ポイント以上		目標 ( )	( +0.2P )	( +0.2P )	( +0.2P )	( +0.2P )
		実績		+0.1P	-0.25P	-2.2P	
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育支援員等を配置し、各種学力調査等における正答率30%未満の児童生徒の把握に努め、きめ細かな学習支援や学び直しに努めた。「わかった、できた」を実感させ、学習意欲を喚起することに努めた。放課後の補習等で学習を補うよう努めた。</li> <li>・県学力到達度調査の県平均との比較で、小5算数-0.2P、小6算数0.2Pとなった。小学校平均としては±0Pで、県平均と同等である。</li> <li>・中学校では、1年数-0.5P、2年数0.2Pとなった。中学校平均としては-0.15Pで、県平均を下回っている。</li> </ul>					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正答率30%未満の割合を経年比で見ると小6(小5:23.5%→13.7%)、中1(小6:47.6%→31.7%)、中2(中1:34.9%→25.1%)となっており、学力二極化の課題が残った。</li> <li>・コロナ禍の中、学校教育支援による補習指導等への影響もあり学習の理解度や定着度に大きな差が見られる。</li> <li>・学校教育支援員について、より良い人材の確保に向け、市の広報やホームページ等を活用し公募を行っているが、応募する方が少ない現状がある。</li> <li>・日本語教育支援員については、3名を配置したが、日本語教育支援対象児童生徒数の在籍校が多くなり、指導時間の確保が十分できていない状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種学力調査等における正答率30%未満の支援対象児童生徒を把握し学習のつまずきや支援内容を常に確認し、学びの育ちを検証する。</li> <li>・成績下位層の児童生徒の学力を底上げし中位層に押し上げるとともに、既習事項の学び直し等を含め基礎・基本の確実な定着を目指す。そのため、さらにきめ細かな学習指導と支援を行う必要がある。</li> <li>・学校教育支援員の人材確保のため、公募に当たっては、教員免許所持者、教育関係業務経験者を優先採用することや退職教員に教育委員会から直接、声かけを行うなど、積極的な人材確保に努める。</li> <li>・日本語教育支援対象児童生徒への継続的で効果的な支援を行うため、勤務校の組み合わせや、時間割り振り等を含め柔軟に対応していく。</li> </ul>
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校において、成績下位層の底上げ及び学びの育ちを検証するため、各種学力調査等における正答率30%未満の支援対象児童生徒の把握を行い、学習のつまずきや支援内容を学級・教科担任と常に確認し、学校教育支援員の効果的な活用を図る。</li> <li>・小・中学校の算数・数学について、学習の理解度や定着度が高まるよう、学級・教科担任と学校教育支援員が連携し、放課後等の個別指導・学習支援を充実させ、自立した学習者「自学自習力」の育成に努める。また、中学校期の学力課題改善に向け、支援員増員配置の予算確保が必要である。</li> <li>・支援員の資質向上のため、複数回の研修機会を設定し、支援員として必要なスキルを身に付けるための指導や助言を行う。また、より良い人材の確保に向け、広報やホームページ等の活用や退職教員への声かけも積極的に行う。</li> <li>・日本語教育支援員については、多様なニーズに応えられるよう人材確保を図りつつ、継続的で効果的な配置や支援体制の見直しを適宜、行う。また、県配置1名の日本語教育支援員が継続配置できるのか注視していく。なお、県配置がない場合を想定し、対象児童生徒支援に必要な市単独の予算確保が必要である。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れの点 検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支援員について、公募し担当課における面接を行い、選考している。報酬、賞与等について、地方公務員法に基づき適正に支給している。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



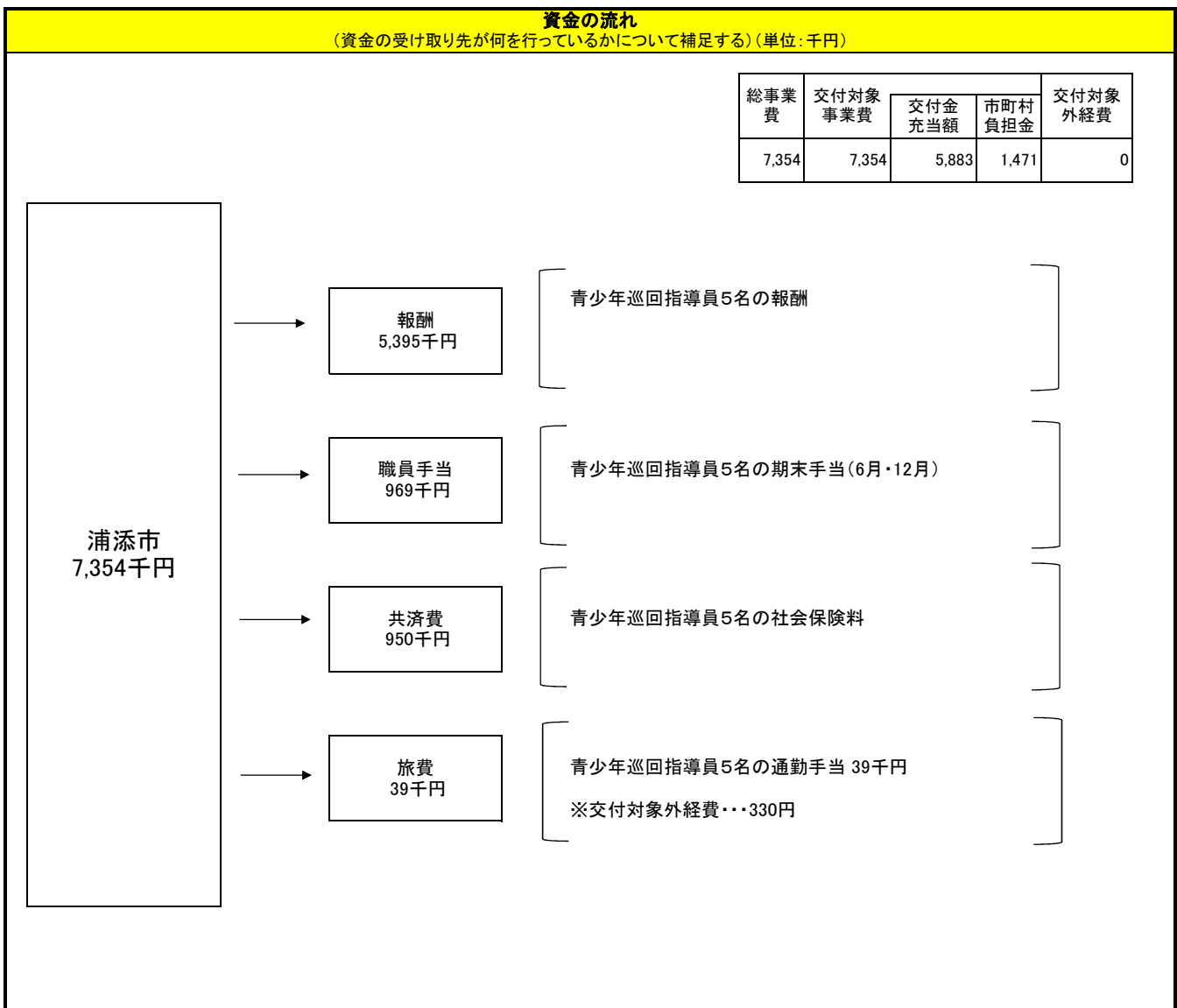
市町村名		浦添市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9	課題を抱える児童生徒支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ	
担当部課名	指導部 こども青少年課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進		
事業内容	課題を抱える不登校等児童生徒へ支援を行うため各種相談員及び支援員を配置し、学校復帰や不登校未然防止を図るとともに、個々に応じた体験活動、学習支援、小集団活動等を通して社会的自立を促す。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	53,000	46,294	46,268	38,278	45,203
		(b) 予算現額	53,000	46,294	46,268	38,278	45,203
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		53,000	46,294	46,268	38,278	45,203
	B. 執行済額		52,139	45,009	42,703	36,535	42,167
	うち交付金充当額		41,711	36,007	34,162	29,228	33,733
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		98.4%	97.2%	92.3%	95.4%	93.3%
予算の状況の説明		臨床心理相談員が2名体制となったため、予算が増額した。(事業計画第2回変更)概ね計画どおり予算執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	臨床心理相談員 教育相談員 自立支援員 適応指導員(R4年度から「適応教室適応指導員配置事業」と統合)	目標	( 1名・6名・3名・0名 )	( 1名・6名・3名・0名 )	( 0名・6名・3名・0名 )	( 2名・6名・3名・1名 )	
		実績	1名・6名・3名・0名	1名・6名・3名・0名	0名・6名・3名・0名	2名・6名・3名・1名	
	教育相談支援員 青少年相談員(R4年度から「青少年巡回指導員事業」へ分離)	目標	( 16名・6名 )	( 16名・6名 )	( 8名・5名 )	( 16名・0名 )	
		実績	16名・6名	16名・6名	8名・5名	16名・0名	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理相談員2名を配置し、保護者面談を通して児童生徒の見立てを行った。</li> <li>教育相談員6名を配置し、教育相談室において各機関と連携しながら情緒不安を抱えた児童生徒支援を行った。</li> <li>自立支援員3名を配置し、遊び非行・ひきこもり傾向の児童生徒を対象に自立支援室での支援や学校への訪問支援等を行った。</li> <li>適応指導員1名を配置し、適応指導教室において小集団のなかで学習活動や体験活動を行ったり、チャレンジ登校を通じて集団への適応を促す支援を行った。</li> <li>教育相談支援員16名を学校現場に配置し、相談室での対応や登校支援を行い、不登校への未然防止及び早期対応に取り組んだ。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(5年度)
	不登校児童生徒のうち、相談・指導等を受けていない子の割合を低減【小学校】	目標	( )	( - )	( - )	( 26.5%以下 )	( 23.8%以下 )
		実績		32.5%	15.7%	11.9%	
	不登校児童生徒のうち、相談・指導等を受けていない子の割合を低減【中学校】	目標	( )	( - )	( - )	( 22.4%以下 )	( 19%以下 )
		実績		36.3%	16.0%	6.5%	
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果目標について、H30年度からR3年度において不登校児童生徒復帰率を設定していたが、令和4年度からは取りこぼしのないよう児童生徒を関係機関等支援につなぐことを目指し、「不登校児童生徒のうち、相談・指導等を受けていない子の割合を低減」を目標として設定した。(R2年度・R3年度については比較対象として実績値のみ記載)</li> <li>小学校、中学校ともに目標値を下回る数値となり、成果目標を達成できた。</li> </ul>					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の変化に伴い不登校の要因が複雑になり、長期化する困難ケースや相談につながるケースの低年齢化が増加傾向にある。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大の影響も相まって、登校しづりや不登校児童生徒の相談件数が増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期に相談へつなげるよう努めるとともに、保護者ともつながり切れ目ない支援を行う。</li> <li>相談員、支援員の配置人数にも限界があることから、今後も効果的な支援を生み出すための体制づくりを考慮していく必要がある。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を抱える児童生徒及びその保護者が孤立することなく相談支援の機会を得られるよう、今後も各相談員・支援員、各教室の取り組み等情報発信を行うとともに、引き続き保護者交流会を実施する。また、小集団活動のさらなる充実を図り、児童生徒の社会的自立を促進する。</li> <li>相談員・支援員同士のチームミーティングや研修会等、情報共有の機会を充実させ、関係機関との連携も強化する。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>42,170</td> <td>42,167</td> <td>33,733</td> <td>8,434</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	42,170	42,167	33,733	8,434	3
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費								
42,170	42,167	33,733	8,434	3								
浦添市 42,167千円	報酬 21,675千円	臨床心理相談員 2名 教育相談員 6名 自立支援員 3名 適応指導員 1名	(こども青少年課配置各相談員に対する報酬)									
	職員手当(期末手当) 4,163千円	臨床心理相談員 2名 教育相談員 6名 自立支援員 3名 適応指導員 1名	(こども青少年課配置各相談員に対する職員手当(期末手当))									
	共済費(報酬・賞与に係る社会保険料) 3,773千円	臨床心理相談員 2名 教育相談員 6名 自立支援員 3名 適応指導員 1名	(こども青少年課配置各相談員に対する報酬及び賞与にかかる社会保険料)									
	報酬に係る費用弁償 389千円	臨床心理相談員 2名 教育相談員 6名 自立支援員 3名 適応指導員 1名	(こども青少年課配置各相談員に対する費用弁償 交付対象外経費(3千円))									
	報償費 10,730千円	教育相談支援員 16名	(教育相談支援員に対する謝礼金)									
	需用費 325千円	消耗品(体験活動実習費) 光熱水費(電気・水道・ガス)	(自立支援室体験活動実習費 光熱水費 車両運行に伴う燃料費)									
	役務費 100千円	通信運搬費 火災保険料 自動車損害保険料 傷害保険料	(自立支援室用携帯電話、インターネット接続料及び火災保険料 車両にかかる損害保険料、 教育相談支援員にかかる傷害保険料)									
使用料及び賃借料 1,012千円	(株)エムワイオート (有)上田不動産	(車両リース代 自立支援室賃借料)										
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明									
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各支援員は公募により選考・面接している。リース車両契約は見積合わせによる随意契約。自立支援室ひなたは地方自治法施行令第167条の2第1項第2号に基づき随意契約。それぞれ妥当であったと考えている。 ○事業執行率は90%を超えており、適正な規模であった。 ○費目、使途については事業報告書により確認し、適正であると判断した。									
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。										
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。										

市町村名		浦添市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10	青少年巡回指導員事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-(イ)	
担当部署名	指導部 こども青少年課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進	
事業内容	青少年の問題行動が発生しやすい公園及びたまり場等での巡回指導や第2金曜日の夜間街頭指導を行い、非行の未然防止と早期発見、早期対応を図る。また、市内を巡回しながら登下校時の見守りや不審者情報への対応、学校からの依頼により不登校傾向の児童生徒の家庭訪問等の支援を行う。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和12年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		(a)当初予算額	53,000	46,294	46,268	38,278	7,723
		(b)予算現額	53,000	46,294	46,268	38,278	7,723
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	53,000	46,294	46,268	38,278	7,723
		B.執行済額	52,139	45,009	42,703	36,535	7,354
		うち交付金充当額	41,711	36,007	34,162	29,228	5,883
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	98.4%	97.2%	92.3%	95.4%	95.2%
予算の状況の説明	・令和4年度から「課題を抱える児童生徒支援事業(R3:8-③)」から事業を分離した。 ・事業は当初予定通りに執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	青少年巡回指導員配置数(令和3年度までは青少年相談員配置数)		目標 ( 6 名 )	( 6 名 )	( 5 名 )	( 5 名 )	
			実績 6 名	6 名	5 名	5 名	
	毎月第2木曜日「朝のあいさつ運動」の実施		目標 ( — )	( — )	( — )	( 12 回 )	
			実績 —	—	—	8 回	
毎月第3金曜日の「夜間街頭指導」への参加		目標 ( — )	( — )	( — )	( 12 回 )		
		実績 —	—	—	11 回		
達成状況説明	・計画どおり、当初から青少年巡回指導員5名を配置した。 ・令和3年度までは「課題を抱える児童生徒支援事業」に青少年相談員として属していたが、声かけの対象を広げることで、効果的に事業を実施できると考えられることから令和4年度から「青少年巡回指導員事業」として事業を行った。 ・年度初めから夏場にかけて県内のコロナ感染状況が悪化したことから、学校から外部の人の校内への立入を制限したい旨の要望があったため、「朝のあいさつ運動」を自粛した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R5年度)
	不登校児童生徒の要因の中の「生活リズムの乱れ・あそび・非行」の低減(小学校)		目標 ( )	( — )	( — )	( 21.5%以下)	( 21.5%以下)
			実績	20.4%	9.2%	—	
	不登校児童生徒の要因の中の「生活リズムの乱れ・あそび・非行」の低減(中学校)		目標 ( )	( — )	( — )	( 23.7%以下)	( 23.7%以下)
		実績	21.1%	17.1%	—		
進捗状況説明	・令和4年度より「青少年巡回指導員事業」として開始したことから、新たに成果目標を立てて事業を実施した。 ・令和3年度の実績が低かった理由にコロナ禍での外出制限の影響があったものと思われる。 ・10月中には令和4年度の実績値が確定するため、令和5年度目標値は令和4年度と同一とする。 ・学校行事やイベント開催時は、学校や地域、青少年の健全育成等団体と情報共有を行い連携を取りながら街頭指導を行った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における自粛生活の影響も考えられるが、夜間街頭巡回の際、以前に比べ子ども達が公園などでたむろする姿を見かけることが少なくなっている。</li> <li>・コロナの影響で不登校児童生徒が増加したため、更なる支援及び居場所の必要性。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年を取り巻く環境が変化し、お互い知らない者同士がSNSで繋がったり、親が不在がちな家庭に集まるなど、大人の目に触れない所で犯罪に巻き込まれる危険性が考えられるため、街頭巡回で声かけしながら子ども達と繋がりを持つことは犯罪抑止に寄与する。</li> <li>・スマホやインターネットなどの普及による環境の変化もあるが、コロナ感染症拡大に伴う休校期間などで、生活リズムが乱れ小中学校の不登校児童生徒数が増加傾向にある。不登校の背景や要因は多岐に渡るため、学校や他の支援員らと連携を取りながら早い段階から支援が必要な児童生徒と関係性を持ち、不登校の未然防止や長期化を防ぐ。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>青少年の健全育成を推進するため、子ども達は家庭や学校だけでなく、第三者との関係性を築くことが大切であることから、今後も巡回時にはあいさつや温かい声かけ、見守りを行いながら信頼関係を築き、子ども達が安心できる環境づくりに取り組む。 また、地域や関係機関と情報を共有し連携を図りながら青少年の健やかなる成長を支援していく。</p>		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先の選定については、当課にて公募による面接を行って選考している。</p> <p>○予算規模は、人件費で占められており、事業内容に見合った適正な規模で計上されたと考える。</p> <p>○費目・用途について、事業目的に必要なものに限定されており適正であると考え。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		浦添市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11	こどもが主体的に学習するための学校ICT機器整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-(イ)		
担当部署名	指導部 学校教育課 (浦添市立教育研究所)	事業実施(予定)年度	平成27~令和9年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Society5.0に対応する教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	ICT活用による新たな学びに対応した授業を構築し、こどもが主体的に学習するためのICT機器(電子黒板など)を整備することで、学校教育の質の確保を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a) 当初予算額	130,415	59,661	74,500	46,729	66,220
	(b) 予算現額	130,415	59,661	74,500	52,061	66,220	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	5,332	0	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	130,415	59,661	74,500	52,061	66,220	
	B. 執行済額	127,449	58,154	73,424	49,973	65,836	
	うち交付金充当額	101,959	46,523	58,739	39,978	52,668	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	97.7%	97.5%	98.6%	96.0%	99.4%	
予算の状況の説明	執行率は99.4%であり、計画的に執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	市内2小学校および1中学校へICT機器の整備【小学校2校および中学校1校】 電子黒板+PC:普通教室+特別教室		目標 (タブレット端末:120台 電子黒板:36台)	(タブレット端末:185台 電子黒板:59台)	(電子黒板:57台 充電保管庫9台)	(電子黒板:71台)	
			実績 タブレット端末:120台 電子黒板:36台	タブレット端末:185台 電子黒板:59台	電子黒板:57台 充電保管庫9台	電子黒板:71台	
			目標 (      )	(      )	(      )	(      )	
		実績					
達成状況説明	ICT機器整備では、小学校2校、中学校1校へ整備を行った。電子黒板+PC等について、普通教室及び特別教室へ合計71台(浦添小学校20台、宮城小学校26台、港川中学校25台)を整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	児童生徒へアンケート調査を実施し、「ICT機器を活用した授業がわかりやすかった」と答えた割合:90%以上		目標 (      )	( 80% )	( 90% )	( 90% )	( 90% )
			実績	87%	92%	96%	
	学力向上推進に係る児童生徒の実態調査における思考力・判断力・表現力の向上を示す項目の割合:80%以上		目標 (      )	(      )	(      )	( 80% )	(      )
			実績			72%	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の「ICT機器を活用した授業がわかりやすかった」と答えた割合は目標値を達成している。内訳は、小学校児童で96.0%、中学校生徒で96.2%であった。</li> <li>児童生徒が「思考力・判断力・表現力の向上」に向けた活用ができた児童生徒の割合は72.4%であった。内訳は、小学校児童で66.8%、中学校生徒で85.5%であった。</li> </ul>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>GIGAスクール構想の推進により、児童生徒の1人1台端末の活用が進み、本事業で導入している電子黒板との連携により、教育活動におけるICT活用の日常化が進んでいる。</p> <p>(児童生徒の理解度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果より、「わかりやすい授業」の推進が進んでいることが伺え、1人1台端末と電子黒板との連携による成果が表れていると考えられる。</li> </ul> <p>(児童生徒の思考力・判断力・表現力の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の「思考力・判断力・表現力の向上」に向けた活用の成果は、中学校では目標値を達成しているが、小学校では目標値を下回っている。これは、小学校の平均値は低学年も含まれているため、全体としての数値が下がっていると考えられ、学年が進級することに割合は高くなっている。</li> </ul>	<p>(児童生徒の理解度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さらに「わかりやすい授業」の実践を推進するため、「効果的な」活用方法の研修の推進が進んでいることが伺え、1人1台端末と電子黒板との連携による成果と考えられる。今後、活用の学校間差、教師差をなくす取組が必要である。</li> </ul> <p>(児童生徒の思考力・判断力・表現力の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年が進むに従って、「思考力・判断力・表現力の向上」に向けた活用が高まっていることから、小学校低学年での活用方法について研究を深める必要がある。</li> <li>中学校においてはさらなる向上を目指して、より探究的な学習を推進していくことが期待される。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

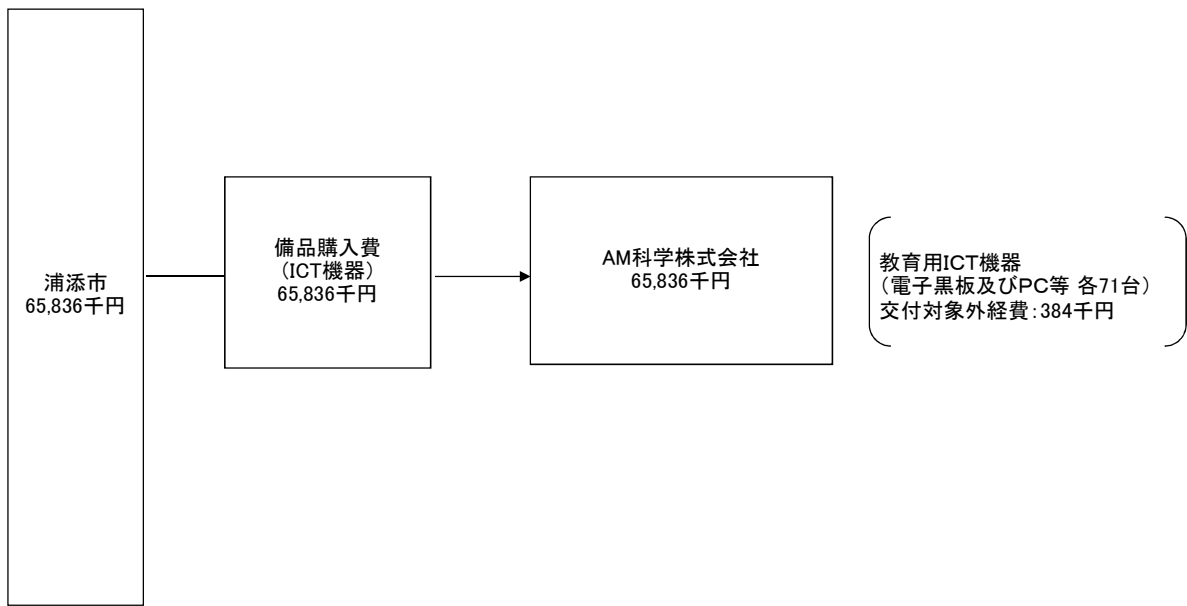
(児童生徒の理解度)

(児童生徒の思考力・判断力・表現力の向上)

- 活用の学校間差、教師差の解消や、小学校低学年での活用促進に向けて、先進校の取組の学校間での共有に向けた支援や浦添市ICTエバンジェリストによる校内外での活用促進を推進していく。
- 「思考力・判断力・表現力の向上」にむけて、先進的な取組や授業実践事例の共有や「効果的な活用」に関する教職員研修の充実、浦添市ICT支援員による授業支援や出前講座による学校支援を推進していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

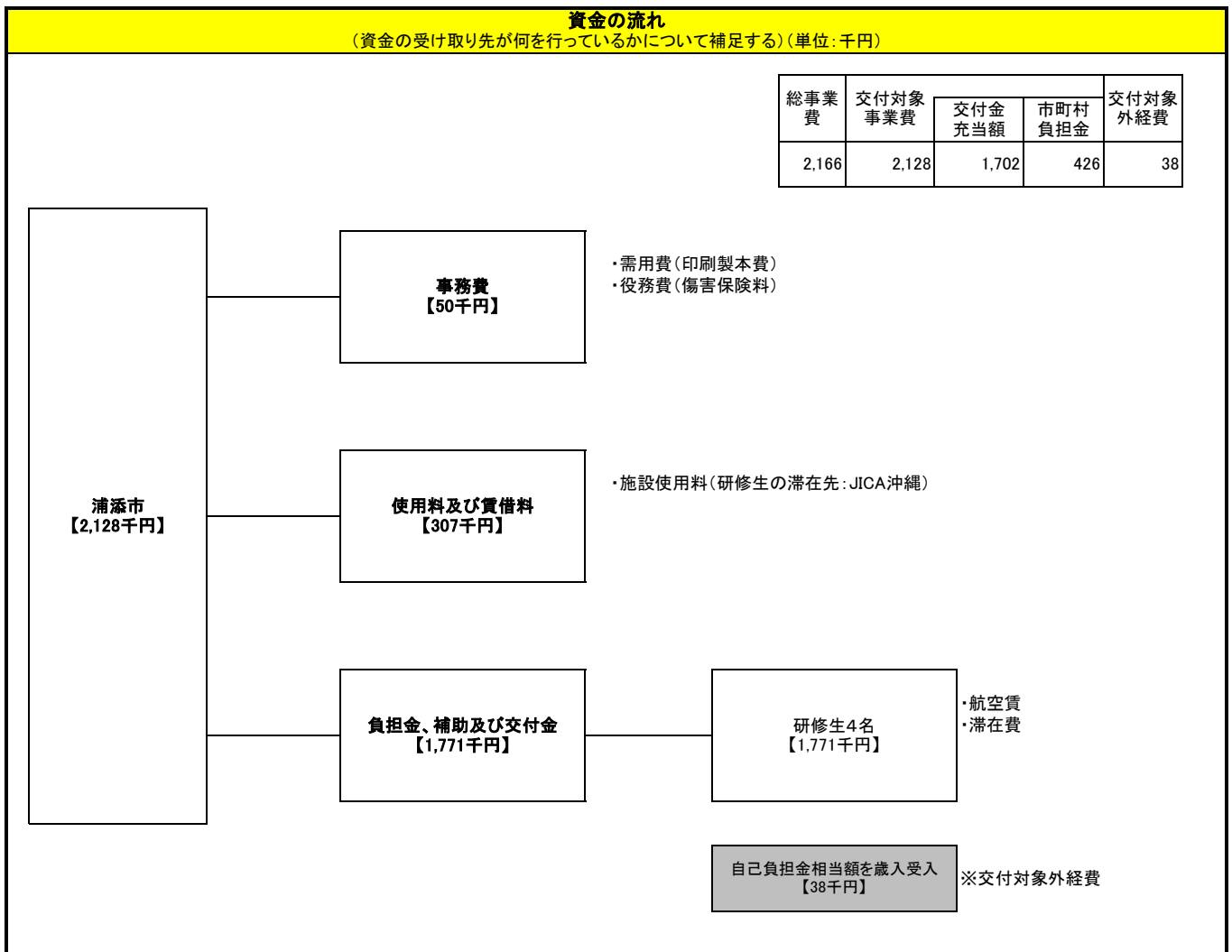
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
66,220	65,836	52,668	13,168	384



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○備品購入に係る契約は、一般競争入札で落札した業者との契約であり、適切であると考え。</p> <p>○不用額は5%以内であり、予算規模は事業内容から適正と考える。</p> <p>○備品購入は、必要最低限になるように検討したもので、適正であると考え。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		浦添市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	12	浦添市南米移住者子弟研修生受入事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-4-(2)-ア	
担当部課名	企画部国際交流課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交流基盤としてのウチナーネットワークの継承・発展	
事業内容	戦前戦後を通して南米へ移住した浦添出身者やその子弟とのネットワークを強化するため、浦添市出身者子弟を招聘し、本市及び本県と移住先国との友好親善、沖縄文化の振興・発展に貢献しうる人材を育成する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a) 当初予算額	3,985	3,396	2,438	3,331	2,129
	(b) 予算現額	3,985	3,396	2,438	3,331	2,128	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	-1	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	3,985	3,396	2,438	3,331	2,128	
	B. 執行済額	3582	2666	0	0	2,128	
	うち交付金充当額	2866	2132	0	0	1,702	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	89.9%	78.5%	0.0%	0.0%	100.0%	
予算の状況の説明	当初予算は3,441千円であったが、2,129千円に減額となった(第4回変更時に提出)。不用額1312千円は、当初、南米研修生を6人招聘予定であったが、現地での仕事の状況や新型コロナウイルス感染症の影響で4人に減ったため、交付金(航空運賃)、役務費(傷害保険料)、施設使用料が減額になったことによる。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	南米移住者子弟研修生受入:4人	目標	( )	( )	( )	( 4人 )	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界のウチナーンチュ大会への参加</li> <li>地域との交流</li> <li>世界の浦添出身者歓迎会の補助</li> <li>世界の浦添出身者へ浦添市の紹介</li> <li>帰国後に現地において報告会を開催</li> </ul> 【参考指標】令和3年度以前の活動目標	実績				4人	
南米移住者子弟研修生受入:2人 各種研修・交流を実施 ・日本語研修・文化研修・県外視察・地域との交流	目標	( 2人 )	( 中止 )	( 中止 )	( )		
達成状況説明	10月23日から11月7日までの約2週間、ペルーから2人、ブラジルから2人研修生を招聘し事業を実施した。(アルゼンチンからは今回は推薦不可との連絡あり。)世界のウチナーンチュ大会への参加、それに伴う本市出身者歓迎会において翻訳・通訳を担ったほか、保育所やこども園、イベントでの交流、地域行事への参加を通して地域の国際化に寄与した。帰国後は、各国の市人会活動で研修の様子を伝え、沖縄や浦添の伝統・文化の継承に努めてもらう。また、今後は「南米からのおたより」を作成し、本市のホームページで南米各国の生活や文化等を伝えてもらう。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	研修を受けた結果、 ①沖縄アイデンティティが高まった②これまで以上に沖縄文化の継承に寄与したいと答えた研修生の割合:90%以上	目標	( )	( )	( )	( 90% )	( )
		実績				100%	
	②研修生の報告を聞き、沖縄の文化を継承していきたいと感じた人の割合:80%	目標	( )	( )	( )	( 80% )	( )
実績					未実施		
進捗状況説明	ペルーとブラジルからそれぞれ2人ずつ計4人を研修生として招聘し、第7回世界のウチナーンチュ大会や、浦添市出身者歓迎会等を通して本市及び本県と移住先国との友好親善、沖縄文化の振興・発展に寄与する人材の育成を図った。また、地域交流として、保育所・こども園や市のイベント等に参加し、移民の歴史・異文化を紹介するなどの活動を実施し、移民や海外に根付くウチナーコミュニティの認知を図ることで、児童、地域住民の国際意識の醸成にも繋げた。令和4年度はウチナーンチュ大会開催年で滞在期間が約2週間と短く、ウチナーンチュ大会開催行事のアシスタントとしての役割が大きい。そのため成果目標(指標)②については、通常年のように文化研修等を受けていないことから、現地に限り沖縄の文化を継承していくための報告会は開催していないためアンケート集計未実施。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市在のJICA沖縄に宿泊する他自治体の南米研修生と合同プログラムを実施し、研修生同士の交流ができたほか、JICA沖縄とも連携することができた。</li> <li>成果発現の確認手法として、帰国後も現地活動や文化紹介等のレポート(南米からのおたより)提出を求め、市ホームページで紹介しているが、中・長期的なスパンでの確認方法について検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修生の趣向を事前に把握し、より効果的に沖縄の文化や歴史に対する理解が深められるよう対応する。</li> <li>成果発現の確認を行う方法については、本事業の成果を測るために実施しているアンケートの内容の見直しも含めて、引き続き検討が必要である。</li> </ul>
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は世界のウチナーンチュ大会が無い通常年であるため、浦添市出身の南米移住者子弟研修生の招聘人数を2人とし、本市及び本県と移住先国との友好親善、沖縄文化の振興・発展に貢献しうる人材として育成する。</li> <li>当面の間は研修期間を4ヶ月間としつつ、適当な研修期間等について引き続き検討する。</li> <li>本事業の成果を測るために実施しているアンケートの内容の見直しを含めて、より成果発現の確認がしやすい方法について検討を行っていく。</li> <li>研修生には本市と移住先国を繋ぐ交流の架け橋として継続した取り組みが求められることから、各国の市人会等との連携を強化し、研修生の活動機会の創出を図る。また、各市人会の活動について、広く発信や共有を行うと共に、引き続き成果発現の確認手法確立に向けて検討を続ける。</li> </ul>		



資金の流 れ、費目 の点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・研修生が滞在する施設は賃貸借契約「地方自治法施行令第167条の2第1項第1号」に基づく随意契約とした。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・研修生に交付した交付金は、「浦添市補助金等の交付に関する規則」及び「浦添市南米移住者子弟研修生受入事業交付金支給規程」に基づき適正に交付した。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・予算は必要最小限にとどめており、適切な予算規模であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・2週間の研修期間において、研修に従事しない日の滞在費と宿泊費を研修生の自己負担としたことは適切であった。 ・費目・使途については、執行途中、額の確定時において事業目的達成の観点から必要最小限であったか確認し、適正であった。



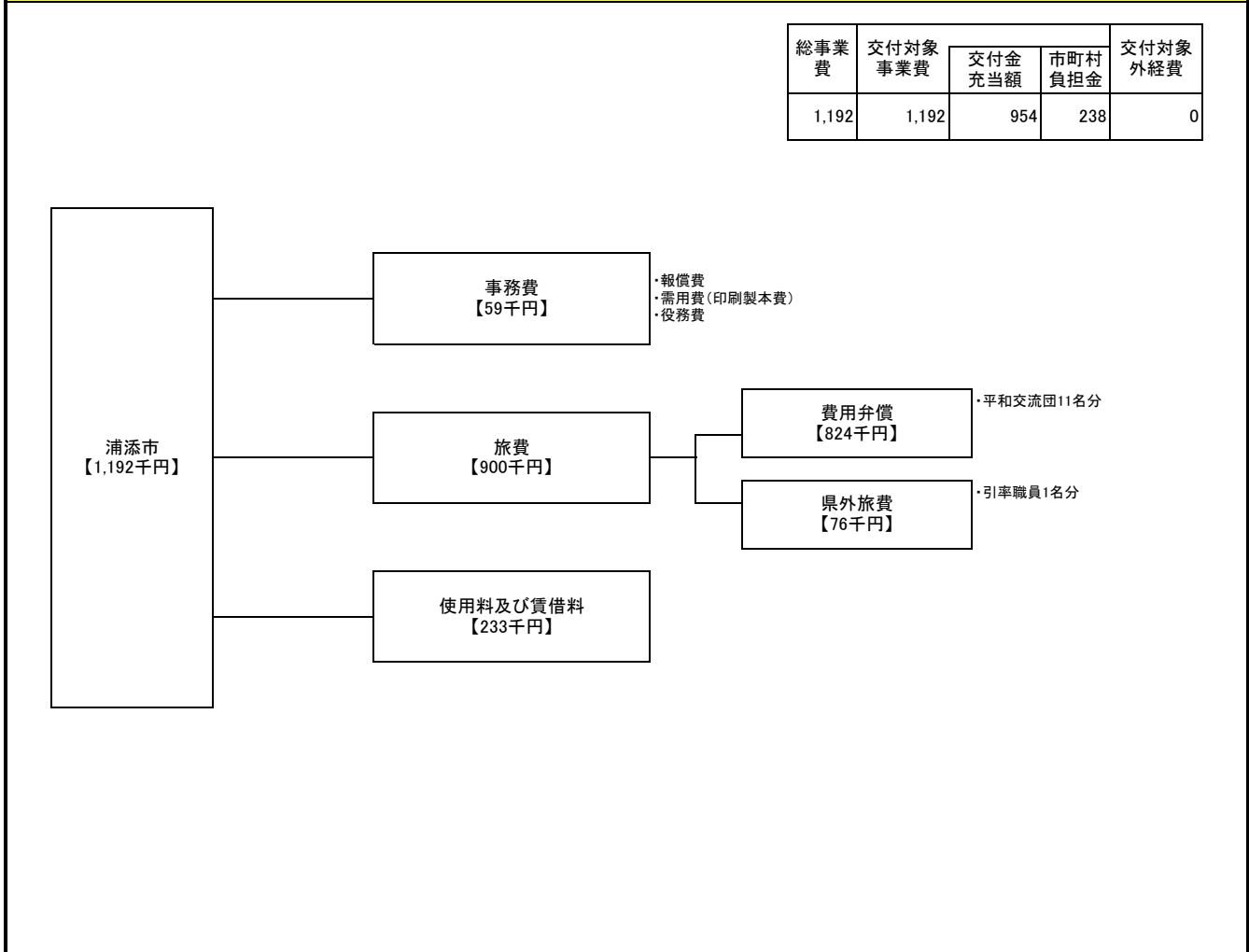
市町村名		浦添市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	13	浦添市中学生平和交流事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-4-(1)-イ	
担当部署名	企画部国際交流課	事業実施(予定)年度	平成25年度～ 令4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄県の実相・教訓の次世代継承		
事業内容	浦添市立各中学校の代表生徒が研修や交流を通して平和について理解を深めることを目的に、事前研修・本研修・事後研修で構成する平和学習交流事業を行う。また、本研修終了後に「浦添市ピースメッセンジャー」として認定し、市民に向けた活動報告により平和の啓蒙を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a) 当初予算額	1,581	1,216		1,624	1,193	
	(b) 予算現額	1,581	1,216		1,370	1,193	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	▲254	0	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	1,581	1,216	0	1,370	1,193	
	B. 執行済額	1,526	986		1,076	1,192	
	うち交付金充当額	1,220	789		860	954	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	96.5%	81.1%	#DIV/0!	78.5%	99.9%	
予算の状況の説明	新型コロナウイルス感染拡大の影響から、県外研修日程の短縮(3泊4日→2泊3日)及び日向市から中学生受入中止に伴い、予算の減額(第4回変更)を行った。不用額については、報償費や旅費、使用料及び賃借料などが当初予定より低く抑えられたことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	目標	( 10人 )	( 中止 )	( 10人 )	( 10人 )		
	実績	10人		10人	10人		
達成状況説明	市内中学生10人及び平和ガイド1人からなる平和交流団を結成し、沖縄戦をはじめ、日向市にて学童疎開の実相を学んだ。日向市派遣後は、中学生の団員10人を浦添市ピースメッセンジャーとして認定し、市が主催する平和事業において「研修報告・壁新聞展」を行ったほか、平和への願いを発信した。						
	○事前研修(3回):学童疎開体験者講話、浦添・宜野湾戦跡巡り、南部戦跡巡り						
	○本研修(3日間):日向市内戦跡巡り、日向市戦争体験者の講話会及び日向市立日向中学校の生徒らと交流会						
	○事後研修(1回)、市長報告会:研修に関する壁新聞作成、ピースメッセンジャー認定式						
○その他:市主催「浦添平和発信事業」において研修報告・壁新聞展の実施及び運営スタッフとしてピースメッセンジャーの協力							
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	研修やピースメッセンジャーの活動を通じ、平和に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより、本事業のあり方を検証。	目標	( )	( 中止 )	( 80% )	( 80% )	( )
		実績		92.5%	100.0%		
	【参考指標】	目標	( )	( )	( )	( )	
進捗状況説明	団員(中学生)や団員の保護者、「浦添平和発信事業 平和のコンサート」に参加し壁新聞や研修報告を閲覧した一般市民を対象に、平和に関する意識調査アンケートを実施した。47人からの回答を集計した結果、100%の人から浦添市ピースメッセンジャーによる報告を通して「戦争の悲惨さや平和の大切さについて理解が深まった」との回答を得られた。団員への自由記述アンケートにおいては、「講話や戦跡巡り、交流会などをとおして学んだ、戦争の悲惨さ、醜さ、愚かさをもっと多くの人に伝えていきたいという思いが芽生えた」との回答からも平和に対する理解が深まったことが伺えた。また、保護者からは今後の活動について、口頭で伝えるだけでなく様々な方法で平和を発信して欲しいと期待が寄せられた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(平和への理解度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学童疎開体験者の疎開当時の年齢と団員が同世代ということもあり、体験談を聞くなかで、自分事として捉えることができたことが、平和に対する理解に繋がった要因の一つと考える。</li> <li>・ほとんどの団員がアンケートで、研修を終え日常のなかで戦争や平和について考える時間が増えたと答えている。また、さらに深く知りたいという思いから、戦跡についてインターネットで調べたり、前より知識を持って家族や友達、先生と話すことが増えたという回答から、団員の周りにも平和への思いが伝わっていることが伺える。</li> <li>・ピースメッセンジャーの活動については、様々な発信方法が求められている。</li> </ul> <p>(地域性に特化した研修の継続性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本研修派遣先を浦添の疎開地である日向市としたことで、地域性に特化した平和学習ができたが、派遣先では疎開に関する資料館等はなく、疎開体験者の案内による戦跡地視察や講話が学習の柱となっているため学習の継続性に懸念がある。</li> </ul>	<p>(平和への理解度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平和に対する理解度を深めるためには、疎開体験者から直接当時の様子を聞く時間を研修に組み込むことが重要であるが、今後ますます戦争体験者が高齢化していくなか、研修方法を工夫する必要があると考える。</li> <li>・事前研修、本研修では、団員がその後認定されるピースメッセンジャーとしての活動を意識しながら参加できるような研修内容を検討していく。</li> </ul> <p>(地域性に特化した研修の継続性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浦添市の地域に特化した平和学習を継続するために、事前研修の学習内容の見直しや、本研修派遣先での交流方法に工夫を図る。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

<p>(平和への理解度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団員が戦時中の出来事を自分事として捉えることができる学習を展開できるよう、適宜見直しを図りながら、研修を実施していく。</li> <li>・ピースメッセンジャーの活動については、市が主催する平和に関する取り組みで発信の場を設けるなどの活用や団員の自主性を尊重しながら、活動をサポートできるような環境を整えていく。</li> </ul> <p>(地域性に特化した研修の継続性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浦添の疎開について充実した学習を展開できるよう、事前研修の回数を増やす等の見直しを図る。また、派遣先での交流において事前研修での学びを発表する機会を持つなど、団員自らが発信者となることでより理解が深められるような交流方法を実施していく。</li> </ul>
--

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



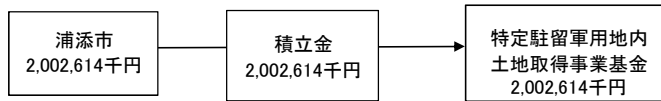
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各学校・団体からの推薦に基づき決定した団員に対する旅費の支払いは、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は、執行段階で最小限の支出となるよう努めたことによるものであり、適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業目的を考慮すると、市の負担での実施(受益者負担無し)は適当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、執行途中及び事業完了時に目的に即し必要最小限であるか確認し、適正であった。

市町村名		浦添市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	14	浦添市特定駐留軍用地等内土地取得事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-(イ)		
担当部署名	西部開発局 跡地未来課	事業実施(予定)年度	平成27年度～令和4年度		沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進 Ⅲ-8		
事業内容	<p>駐留軍用地返還後の円滑な土地利用の推進を目指し、将来の公園・緑地等の公共用地先行取得を行う。本事業はその先行取得の為に基金を造成するものである。</p> <p>※R4より事業名を「牧港補給地区返還跡地転用推進基金事業」から「浦添市特定駐留軍用地等内土地取得事業」に変更</p>							
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R13年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a) 当初予算額	743,707		805,469	750,000	550,000	1,633,805
		(b) 予算現額	2,525,500		805,469	849,175	550,000	1,633,805
		(c) 増減額(b-a)	1,781,793		0	99,175	0	0
		(d) 繰越額	0		0	0	0	0
		A. 計(b+d)	2,525,500		805,469	849,175	550,000	1,633,805
		B. 執行済額	2,525,500		805,469	849,175	550,000	1,633,805
		うち交付金充当額	2,020,400		644,375	679,340	440,000	1,307,044
		次年度繰越額	0		0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初計画通りの積立を執行。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	先行取得未取得面積0.46haの土地取得を目指すとともに、「特定事業の見直し」の拡充を図り、引き続き基金の積立てを行い、駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用を促進する。先行取得目標面積:300,000㎡		目標	( 積立 )	( 積立 )	( 積立 )	( 積立 )	
			実績	積立	積立	積立		
			目標	( )	( )	( )		
		実績						
達成状況説明	牧港補給地区の土地の先行取得による用地取得を推進するため、基金積み立てを行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	【R4成果目標】基金積立		目標	( )	( 積立 )	( 42,000㎡ )	( 4,589㎡ )	( 174,000㎡ )
	【R4成果目標】特定事業の用に供する土地取得目標174,000㎡(達成率99.86%≒100%)		実績		1,853㎡	38,030㎡	4,346㎡	
	【参考指標】		目標	( )	( )	( )	( )	
			実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度先行取得事業により土地取得目標4,589㎡に対し、4,346㎡の土地取得を行った。</li> <li>累計取得面積173,757㎡、土地取得目標面積174,000㎡に対し、ほぼ100%の取得率となった。</li> </ul>							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買取申出を行っているが、相続問題、民間事業者への土地売買検討などにより、売買不成立となる事例があった。</li> <li>・買取申出の総面積が年々減少傾向にある。今後、目標取得面積の拡大により更なる用地取得を目指すため、対策を講じる必要がある。</li> <li>・令和4年9月7日付、特定事業の見直しを変更(17.4ha→30.0ha)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売買不成立となった場合の対策として、前年度と同様にホームページ・広報誌による追加募集の周知活動を講じる。</li> <li>・先行取得の際、小規模面積を優先するなど戦略的な先行取得を検討する。</li> <li>・民間における取引事例は増加傾向にあることから、このような売却意志を有する地権者に対して、効果的にアプローチし、跡地利用計画への理解を促すような広報活動を推進する。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の土地利用を踏まえ小規模面積を優先的取得する等、戦略的な先行取得を検討する。</li> <li>・売却意志を有する地権者に対し、効果的なアプローチを検証し、広報活動を推進する。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
2,002,614	1,633,805	1,307,044	326,761	368,809



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基金積立事業であり、基金条例に基づき積み立てを行っている為、妥当である。</li> <li>・予算規模は、事業内容に見合った適切な規模で確保されており妥当である。</li> <li>・費目、用途については、額確定時に検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		浦添市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	15	てだこの都市・浦添「あまくま歩っちゅん浪漫ウォーク」事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-ア		
担当部署名	市民部 経済文化局 観光振興課	事業実施(予定)年度	平成24年～令和13年	沖縄振興基本方針該当箇所	スポーツ関連産業の振興と地域の活性化		
事業内容	スポーツツーリズムを推進し、本市の歴史・文化、地域特性を活かした交流の輪を広げ、観光誘客及び地域住民の健康意識向上を図るため、ウォーキングイベント「てだこウォーク」を開催する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度( 年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	9,500	7,000	中止	中止	6,170
		(b)予算現額	9,500	7,000			6,170
		(c)増減額(b-a)	0	0			0
		(d)繰越額	0	0			0
	A. 計(b+d)	9,500	7,000			6,170	
	B. 執行済額	9,500	7,000			6,170	
	うち交付金充当額	7,600	5,600			4,936	
	次年度繰越額	0	0			0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%			100.0%	
予算の状況の説明	執行率は100%であり、仕様書の内容を全て完了することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	てだこウォーク ～てだこの都市・浦添「あまくま歩っちゅん浪漫ウォーク～」の開催		目標 ( 開催 )	( 中止 )	( 中止 )	( 開催 )	
			実績	2日間開催	中止	中止	2日間開催
	プロポーザル公募による大会プロモーション及びイベントの実施		目標 ( 実施 )	( 中止 )	( 中止 )	( 実施 )	
			実績	実施	中止	中止	実施
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着型の魅力あふれるスポーツツーリズム浦添を目指し、令和5年2月11日(土)・12日(日)の2日間にわたりANA ARENA 浦添(浦添市民体育館)を主会場に「てだこウォーク2023」を開催し、滞りなく運営できた。</li> <li>・企画力のある民間提案の募集を図るため、公募型プロポーザル方式による業者選定を行い、大会プロモーション及び出発前のステージイベントを実施した。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	市外からの参加者:3,430人 市内からの参加者:4,030人 合計参加者数:7,460人		目標 ( )	( 中止 )	( 中止 )	市外:3,430人 市内:4,030人	( )
			実績	-	-	市外:2,951人 市内:3,401人	
	【参考指標】		目標 ( )	( )	( )	( )	( )
			実績				
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者数に関しては、コロナ対策を講じながらの開催となった。接触を減らす観点から、例年好評の沿道での各自治体からのおもてなしの中止、給水ポイントも最低限度にする。会場内では抽選会を無くす、会場内での飲食を無くす、出店事業者を減らす、ステージイベントを出発前に行うなどウォーク後に会場に滞留させるのを防ぐ取り組みを行った。それが影響して参加者減になったと考える。</li> <li>・大会プロモーションは、市HP・SNS、テレビ番組タイアップ2番組、テレビCM38本を2社、ラジオCM556本、Vtuberとのコラボ、ブログ作成、プレスリリース、facebook・YouTube・Googleでの広告を実施した。また、県内イベント時のチラシの配布、県内小学校へのチラシの配布、市役所庁舎への懸垂幕の設置、市内を中心とした目立つ場所への横断幕の設置(5箇所)などのプロモーションを行った。</li> </ul>						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース上のおもてなしや、ステージイベントの縮小と、コロナ対策を講じながらということもあり、本ウォーキングイベントの魅力を最大限活かすことができなかったと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きコロナの状況を注視しながらにはなるが、コース上のおもてなしや、会場での賑やかさを再開させて、参加者の満足度向上に繋げる。</li> <li>・色々な媒体を通してプロモーション活動を行っていくことで、幅広い層へ本ウォーキングイベントを周知し、参加者数の増加に繋げる。</li> <li>・県内小学校へのチラシ配布を早めに行い、小学生が参加するであろう短い距離のコースには参加したくなるような工夫を盛り込む。</li> <li>・駐車場には限りがあるため、公共交通機関を利用を促し、違法駐車が目立つ場所には警備員を配置して対応していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの状況を注視しながらということもあって、募集開始時期や各プロモーション、県内小学校へのチラシ配布のタイミングがかなり間際になってしまった。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場周辺の駐車場で混雑し、路上駐車などの違法車両が見られた。</li> </ul>	
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会によるコース上のおもてなしや、歴史ガイドによる浦添市内の史跡紹介、市内事業者による会場内でのブース展示・販売等を拡充させる取組みを行い、参加者が満足するウォーキングイベントを目指す。また、改めてコースを検討、開催日数の変更など、地域の魅力をより伝えるための地域密着型イベントとして他のウォーキング大会との差別化を図りつつ、より本市の魅力を発信できる大会を目指す。</li> </ul>		

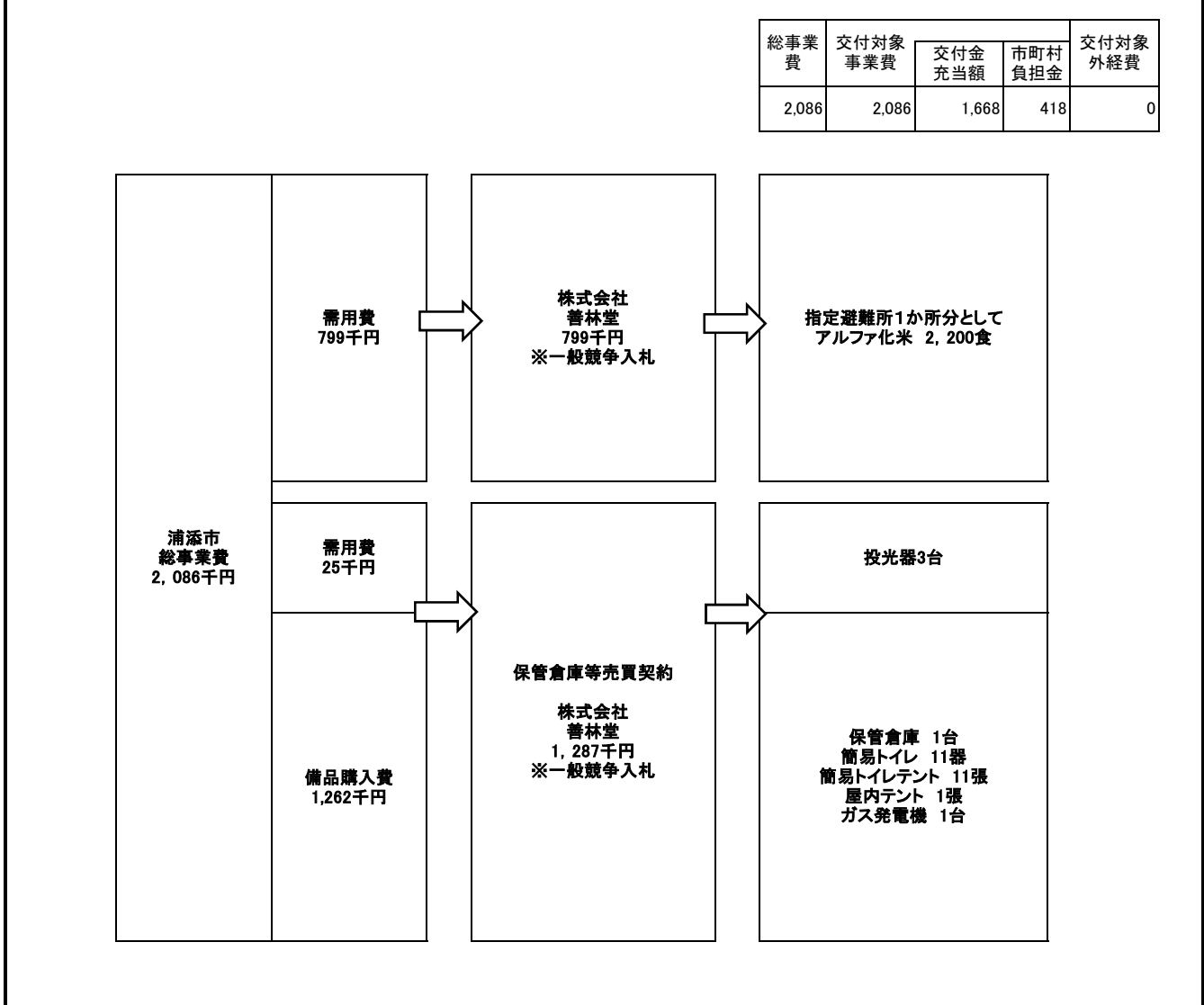
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	6,170	6,170	4,936	1,234	0
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; width: 20%;">           浦添市 6,170千円         </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; width: 20%;">           委託料 6,170千円         </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; width: 20%;">           株式会社 RPLUSLab 6,170千円         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; width: 20%; margin-top: 20px;">           てだこの都市・浦添 「あまくま歩っちゃん浪漫ウォーク」 事業業務委託         </div> </div>					

資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・価格のみで比較する一般競争入札よりも、企画力・技術力のある事業者から幅広く提案を募集する公募型プロポーザルによる選定を行っており、事業内容に合った妥当な選定方法であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・事業費内で委託内容を完了することができ、適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費用、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	浦添市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	No.16	災害時備蓄食料及び保管倉庫等整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(4)-イ		
担当部署名	総務部 総務課 防災危機管理室	事業実施(予定)年度	令和1年度～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	大規模災害に備えた強くしなやかな県土づくりの推進 Ⅲ-10-(3)		
事業内容	災害時における住民及び観光客の安全を確保を図るため、未整備の避難所等に備蓄倉庫を設置し、備蓄米、飲料水及び災害用品等を配備する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	(a) 当初予算額	7,570	7,720	8,906	2,294		
	(b) 予算現額	6,313	2,326	8,806	2,294		
	(c) 増減額(b-a)	▲ 1,257	▲ 5,394	0	0		
	(d) 繰越額	0	0	0	0		
	A. 計(b+d)	6,313	2,326	8,806	2,294		
	B. 執行済額	6313	2,326	8,245	2,086		
	うち交付金充当額	5050	1,860	6,596	1,668		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	93.6%	90.9%		
予算の状況の説明	計画通りに執行している。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	災害用備蓄米 2,200食	目標	( 4400 )	( 2200 )	( 2200 )	( 2200 )	
		実績	4400	2200	2200	2200	
	保存水	目標	( 6360 )	( 6840 )	( 7320 )	( 240 )	
		実績	6360	6840	7320	240	
	備品等(簡易トイレ11器、簡易トイレント11張、屋内テント1張、ガス発電機1台、投光器3台)	目標	( 50 )	( 1 )	( 2 )	( 1 )	
実績		50	1	2	1		
防災倉庫 1棟	目標	( 7 )	( 1 )	( 1 )	( 1 )		
	実績	7	1	1	1		
達成状況説明	すべて計画どおり達成している						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	整備した食料及び備品等を活用した避難訓練の実施、検証を行うことで住民の安全確保に資するところと考え、成果目標とする(1回/年)	目標	( 1 )	( 1 )	( 1 )	( 1 )	( 1 )
		実績	/	0	0	0	/
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績	/				/
進捗状況説明	計画通り防災倉庫及び備品等の整備が完了した。 しかしながら、成果目標を「整備した食料及び備品等を活用した避難訓練の実施、検証を行うことで住民の安全確保に資するところと考え、成果目標とする(1回/年)」としたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止・予防の観点から訓練や研修、講習会等、一同に介して実施することができない状況であった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>避難所との防災減災対策の重要さの認識が合致したことから、倉庫の設置から備蓄品整備の完了に至った。 しかし、成果目標とする(1回/年)としたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止・予防の観点から訓練や研修、講習会等、一同に介して実施することが難しい状況であった。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止・予防の観点から避難訓練等の実施ができなかったことから、今後、新型コロナウイルスが2類から5類へ移行したことを受け、感染予防対策を徹底し、避難訓練等を実施していく。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>備蓄倉庫内の備品の取扱いや保管方法などの周知が必要であり、展開訓練等を実施することで住民及び観光客の安全を確保する。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○一般競争入札により選定していることから、選定方法は妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○執行率は90%は、入札による減であり適切な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者は観光客及び住民であり、市負担として妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○島嶼における防災減災対応において真に必要なものに限定されている。